

平成26年度指定
スーパーグローバルハイスクール
研究報告書・第3年次



平成29年3月
静岡県立三島北高等学校

はじめに

静岡県立三島北高等学校
校長 杉山 由美子

「三島北高にきて、私の人生は大きく変わりました。」これは、指定以来S G H諸事業の牽引役を担ってきた「国際交流室」所属生徒の言葉です。彼らは、学校設定科目L W I (Local Water Issues)、G W I (Global Water Issues)でリーダーシップを発揮するだけでなく、ベトナム海外研修やシンガポール修学旅行の事前・事後学習で独自テーマに取り組み、大学等諸機関でのポスターセッションに参加したり、英語ディベートにも果敢にチャレンジしています。世界水の日にはUN Waterに日本の高校生として初めて投稿し、高い評価をいただきました。S G H指定校となったことで、意欲のある生徒達が、グローバル体験を持ち人間的成長を実感していることはこの上ない喜びです。

一方、本校のS G H事業の特色は、1、2学年全生徒を対象とした学校設定科目を設定している点にあります。文部科学省による中間評価でも、「全生徒を対象としたグローバルマインドの育成方法等のモデルとなりうるので、今後も継続を」というコメントをいただきました。様々な試行錯誤を経て、時間割編成、教員配置、授業案・ワークシート、打ち合わせ時間の確保、効果的な外部支援の時期、評価方法等々、全校体制のシステムが整いつつあります。さらに本年度は、懸案だったCan-Do リストを作成し、いつまでにどのような資質・能力を育成するかを共有することができました。作成にあたっては、静岡県総合教育センター総合支援課高校班班長の野村賢一様から多大なる御支援をいただきましたことを心より感謝申し上げます。また、英語コミュニケーション力向上に向けて、授業での発信力育成や英語検定試験2級以上取得、エンパワメント講座の近隣校との合同開催にも取り組みました。

試行錯誤の過程で、課題も見えてきました。「研究の質の確保」「英語指導」「モチベーション格差への対応」については、外部からの専門家の方々によるタイムリーな指導を計画実践することで少しずつ改善がなされていると感じます。今年度は、教員研修として、ファシリテート力向上や論文作成支援のための講座等も実施しました。海外研修については、共同テーマでの研究や「行動力」育成につながる課題研究の必要性も見えてまいりました。4年目となる来年度は、持続可能なS G H事業とするため、全職員体制でのさらなる組織的・系統的実践をしていく予定です。

3年間の実践を通して痛感することは、グローバル人材育成のためには、国内外の諸機関や外部指導者との連携のシステム作りが必須であるということです。幸いにも本校は、「S G H推進会議」委員長の立教大学松本茂教授、副委員長の水ジャーナリスト橋本淳司様をはじめ、水関連の国際機関・企業・N P O等の方々から、様々な形態での授業支援をいただきここまで実践を積むことができました。今後も、県教育委員会や運営指導委員会の皆様からの御指導・御助言を賜りながら、どの学校でも取り組める全校生徒を対象としたグローバルマインド育成のための効果的なカリキュラム・教材開発研究を進めてまいりたいと思っております。報告書を御一読いただき、忌憚のない御意見をお寄せいただきますようお願いいたします。

目 次

はじめに

平成28年度S G H研究開発完了報告書（別紙様式3）	1
-----------------------------	---

第1章 平成28年度S G H研究開発の成果と課題の分析と検証

1 自己評価	12
(1) G T E C、英語検定試験、コンテスト参加実績等から見える成果	
(2) アンケート結果から見える生徒の変容	
(3) 教員対象アンケート及び保護者対象アンケートの結果及び分析等	
2 外部評価及びそれに対する改善・対応状況等	17
(1) 中間評価結果とこれまでの改善・対応状況	
(2) 運営指導委員会の記録とこれまでの改善・対応状況	
(3) 次年度以降の方向性	

第2章 実施報告書

1 全生徒対象プログラムの開発	19
(1) 指導体制と指導方法	
(2) カリキュラム・マネジメントモデルの構築	
(3) 静岡県立三島北高等学校スーパー・グローバル・ハイスクール Can-Do リスト	
(4) ルーブリック（学校設定科目の評価方法）	
(5) 学校設定科目開発教材例	
2 外国語教育等に関する取組	29
3 全教科における授業改善	31
4 国内外の大学・企業、国際機関等との連携	37
5 海外研修	39
(1) シンガポール修学旅行（2年生全員）	
(2) ベトナム海外研修（1・2年希望者）	
6 教育課程外の取組内容	45
(1) 異文化理解講座	
(2) 外部ワークショップ等への参加及び研究発表	
(3) エンパワーメントプログラム	
(4) 英語ディベート大会参加	
(5) 海外進学・留学情報の提供と海外短期留学支援	
(6) 留学生等の受け入れ	
7 その他の取組	49
(1) 第1回S G H推進会議	
(2) 第2回S G H推進会議	
(3) S G H報告会	
(4) 校内研修	

<参考資料>

1 平成28年度教育課程表	54
2 学校設定科目シラバス	55
3 生徒対象アンケート及び職員対象アンケート	59
(1) アンケート用紙	
(2) アンケート集計結果	
4 S G H国際交流だより	67
5 新聞記事	91

(別紙様式3)

平成29年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 静岡県静岡市葵区追手町9-6
管理機関名 静岡県教育委員会
代表者名 教育長 木苗 直秀 印

平成28年度スーパーグローバルハイスクールに係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

平成28年4月28日～平成29年3月31日

2 指定校名

学校名 静岡県立三島北高等学校

学校長名 杉山由美子

3 研究開発名

「国際的な視野から地域課題を解決できるグローバルな人材の育成」

4 研究開発概要

世界的な課題である「安全な水の確保」をテーマにした課題研究を通じ、大学・企業・行政・NPO・海外学校等との連携の下、情報に対する正しい判断力、発信力、現代社会に対する深い理解、問題解決能力、課題設定力、コミュニケーション能力、行動力、発信力などグローバルな課題に対応できるリーダーを育成するプログラムを開発する。課題研究では、問題基盤型学習・反転学習などの生徒の主体的な取組が必要とされる学習方法を導入するほか、フィールドワークや体験学習、海外学生との課題研究に係る交流事業等を実施する。

5 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ア 授業支援 (ALT等派遣)												
イ 運営指導委員会												

(2) 実績の説明

ア 授業支援

(ア) 学校設定科目GWI支援

日 時 平成28年5月～平成29年2月 木・金曜日
 支援者 県庁ALT、県総合教育センターALT、三島長陵高校ALT
 内 容 個人英語レポート・英文レジュメ・英語ポスター作成及び英語プレゼン指導
 対 象 2年生生徒全員(291人)

(イ) 教員研修支援

日 時 平成28年6月24日(金)
 支援者 県総合教育センター総合支援課高校班指導主事
 内 容 「これからの生徒達に必要な学び～アクティブ・ラーニングの視点から～」
 対 象 全教職員

(ウ) SGH授業担当者指導等

日 時 平成28年6月24日(金)、10月14日(金)、10月26日(水)、11月19日(土)
 支援者 県総合教育センター総合支援課高校班班長
 内 容 学校設定科目LWI授業指導、Can-Do リスト作成支援
 対 象 1・2年担当職員

イ 運営指導委員会の開催

(ア) 第1回SGH運営指導委員会

日 時 平成28年10月19日(水) 午前9時30分から11時30分
 場 所 県庁西館7階教育委員会第一会議室
 出席者 三浦委員長、委員5人、校長、教頭、SGH推進室長
 内 容 ・前回から今回までの事業報告、中間評価を受けての今後の改善・対応状況
 ・今後の活動に向けての指導・助言

(イ) 第2回SGH運営指導委員会

日 時 平成29年2月20日(月) 午前10時から正午
 場 所 県庁西館7階教育委員会第一会議室
 出席者 三浦委員長、委員6人、校長、教頭、SGH推進室長、副室長
 内 容 ・本年度の事業報告、次年度計画・シラバス・Can-Do リストの提示
 ・次年度以降の活動に向けての指導・助言

6 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ア 探究学習プログラム	←											→
イ 外国語教育等の取組	←											→
ウ 全教科での授業改善	←											→
エ 大学・企業・国際機関等との連携	←											→
オ 海外研修事前事後研修	事前研修					事後研修						
カ 教育課程外の取組												
キ その他の取組												

(2) 実績の説明

ア 探究学習プログラム開発

(ア) Can-Do リストの作成による育成すべき力と時期の明確化（報告書 p.22参照）

(イ) 学校設定科目 L W I、G W I の実施

授業名	L W I (Local Water Issues)	G W I (Global Water Issues)
時 間	1単位：水曜日1時間	2単位：木・金曜日2時間連続
対象生徒	1年生全員（291人）	2年生全員（290人）
担当者	1年担任・副担任による T T	1時間目：2年担任・海外交流アドバイザーとの T T 2時間目：情報担当教員が主、担任または海外交流アドバイザーが補助
内 容	テーマ：「地域の水問題」 ・初期指導：専門家による講義 ・各自で研究テーマを絞る ・4～6人のチームで探究学習 ・フィールドワーク（夏休み） ・日本語レジュメ、ポスター作成 ・日本語でプレゼンテーション、ポスターセッション ・英語ポスター作成。英語プレゼンとポスターセッション実施	テーマ：「世界の水問題」 ・専門家による講義 ・各自で興味のある分野について個人探究し、英語レポート作成 ・4～6人のチーム編成。テーマ決定し探究学習 ・英語レジュメとポスターを作成 ・英語でプレゼンテーションとポスターセッション実施
指導法	・問題基盤型学習（P B L）、アクティブ・ラーニングを活用 担当者はファシリテータの役割を担当 ・反転学習や専門家との連携のため学校教育用クラウドサービスを活用 ・毎時間振り返りシートを記入し、成果物と共に保管 ・各チームに2～3台程度のタブレット整備（現在35台）	

- (ウ) L W I、G W Iの年間シラバス、教材開発、評価方法の改善（報告書pp.23-34参照）
- ・年間シラバス・指導案・ワークシート・振り返りシート作成、データ保存
 - ・ループリック（成果物用、プレゼン用）・年間評価用シート作成
- イ 外国語教育等に関する取組（報告書pp.29-30参照）
- (ア) 1年生 L W Iでの英語指導
- ・「研究の目的・方法・結果・考察・結論」のプロセスで課題探究（論理性重視）
日本語レジュメ、日本語プレゼン、日本語ポスター作成 日本語ポスターセッション 英語プレゼン、英語ポスター作成 英語ポスターセッション
- (イ) 2年生 G W Iでの英語指導
- ・英語による個人課題レポート チームでの「研究の目的・方法・結果・考察・結論」のプロセスで課題探究 英語レジュメ、英語プレゼン、英語ポスター 英語ポスターセッション練習、発表 修正と再発表。英語での質疑応答
- (ウ) 「英語表現」「コミュニケーション英語」とS G H授業の連携
- ・エッセイライティング指導 プレゼン手法、ポスター作成手法、英文レポート作成指導
 - ・G W I課題研究に関する英語スピーキングテストの実施
- (エ) 実用英語技能検定試験2級全員受検
- ウ 全教科における授業改善（報告書pp.31-36参照）
- 学校経営計画書において「アクティブ・ラーニング型授業の実践をした教員80%」の数値目標を設定。管理職授業参観の評価項目に入れ、校内研修（前述 5 - (2) - アー(イ)）実施。本年度アクティブ・ラーニング型授業を実践した教員は72.7%であった。
- エ 国内外の大学・企業、国際機関との連携（報告書pp.37-38参照）
- (ア) 探究学習における支援
- < L W I > 時期：3回（4月初期指導、6月課題設定指導、9月ポスター作成前支援）
支援者：橋本委員、八千代エンジニアリング6人、国土交通省沼津河川事務所7人、アサヒグループホールディングス2人
時期：2回（6月課題研究テーマ決定）
支援者：立教大学学生2人
- < G W I > 時期：3回（昨年度3月初期指導、6月課題設定指導助言、9・10月ポスター作成前支援）
支援者：橋本委員、J I C A 1人、N P O法人Water Aid Japan 2人、東レ株式会社1人、栗田工業株式会社1人
- (イ) 探究学習内での英語支援
- < L W I > 時期：2回（12月英文レジュメ作成支援、1月英文ポスター作成支援）
支援者：立教大学学生2人、日本大学国際関係学部大学学生5人
- < G W I > 時期：2回（10～11月ポスター作成補助、1月ポスターセッション練習）
支援者：県教育委員会A L T 4人、東京外国語大学留学生2人
- (ウ) 海外研修での連携
- ・ベトナム海外研修 チュバンアン高校、水資源大学、日本大使館、J I C A
 - ・シンガポール修学旅行 ニューウォーター・ビジター・センター、
シンガポール国立大学、バイオポリス、リバーバレー高校

オ 海外研修（報告書pp.39-44参照）

(ア) シンガポール修学旅行

日 程 平成28年10月2日（日）～10月6日（木）（第1団）

平成28年10月3日（月）～10月7日（金）（第2団）

参加者 2年生全員290人 引率教員16人

訪問先 ニューウォーター・ビジター・センター、
シンガポール国立大学、パイオポリス、リバーバレー高校

内 容 シンガポールの水事情やNEWater のシステム、グローバルな科学政策等についての講演聴講と質疑応答。高校では、事前研修で研究した水問題について互いに英語でプレゼンテーションを行った。

(イ) ベトナム海外研修

日 程 平成28年8月17日（水）～8月21日（日）

参加者 生徒13人（1年10人、2年3人） 引率教員3人

訪問先 ベトナム ハノイ

内 容 チュバンアン高校で水問題に関する相互の英語プレゼン
在ベトナム日本国大使館訪問、水資源大学での大学教授による講義の聴講
ハロン湾にてJICA職員指導でフィールドワーク

(ウ) 事前・事後研修

日 程 4月～2月 毎週水曜日放課後

対象者 ベトナム海外研修参加者13人、シンガポールプレゼン代表者11人 計24人

内 容 研究課題設定、研究、プレゼン練習、研修報告会、各種ポスターセッションへの参加準備

カ 教育課程外の取組（報告書pp.45-48参照）

(ア) 異文化理解講座

回 数 2回

対象者 1～3年生希望者

内 容 1回目：ベトナムの現地事情について、留学生から話を伺う。
2回目：ウガンダの現地事情について、現地でフィールドワークを行っている日本人学生から話を伺う。

(イ) 外部ワークショップ等への参加

- ・第5回高校生国際ESDシンポジウム（筑波大学東京キャンパス：4人）
- ・ウォーターエイドジャパン・スピーカーズクラブ活動報告会（JICA東京：4人）
- ・第1回関東・甲信越静地区SGH課題研究発表会（立教大学：6人）
- ・国際理解教育講座（県立静岡城北高等学校：9人）
- ・ウォーターリテラシー・オープンフォーラム6（ICU：4人）
- ・SGH甲子園（関西学院大学：7人）

(ウ) エンパワーメント講座

日 程 平成28年8月8日（月）～12日（金）

場 所 三島北高校会議室、共通履修室3

参加者 1、2年生希望者35人（県立葦山高等学校、県立沼津東高等学校と合同開催）

内 容 アメリカのトップクラスの大学（UCLA、ハーバード等）の学生12人がチ

ームリーダーとなり、計60人の高校生が5人グループとなり、ディスカッションやプロジェクトワークを、ファシリテータの指導のもと協働してすべて英語で行うプログラムを実施。

(I) 英語ディベート大会参加

日 程 平成28年10月30日(日)

場 所 静岡市立清水桜が丘高等学校

内 容 国際交流室に所属する生徒が、海外交流アドバイザーと英語教諭の指導のもと練習を行い、全国高校生英語ディベート大会静岡県大会に出場した。

(オ) 海外進学・留学情報の提供と海外短期留学支援

A 海外特別派遣事業

学校後援会の奨学金援助により、夏期休業中に2年生3人が短期留学を実施

B トビタテ！留学JAPAN

第2期：夏期休業中に2年生2人がテイクオフプログラムに参加

第3期：1年生14人が第一次審査に応募

C 留学トーク2017

海外大学に進学した卒業生から、留学の意義や心構えなどについて説明

(カ) 留学生等の受入れ

A 長期留学生 ドイツ人男子 平成27年9月から平成28年6月上旬まで 2年部所属

B 短期留学生 ウルグアイ人女子 平成28年10月初旬から11月上旬まで 1年部所属

C 学校訪問 ニュージーランド、ドイツ、マカオから高校生訪問団受入 計57人訪問

キ その他の取組(報告書pp.49-52参照)

(ア) S G H推進会議

日 程 第1回 平成28年6月8日(水) 第2回 平成29年2月2日(木)

場 所 第1回 三島北高校会議室 第2回 プラサヴェルデ

参加者 S G H推進会議委員、本校教職員他 計22人

内 容 第1回 昨年度から現在までの事業報告、改善点についての指導・助言

第2回 中間評価報告、次年度に向けての指導・助言

(イ) S G H事業報告会

日 程 平成29年2月2日(木) 午前10時から午後2時20分

場 所 プラサヴェルデ

参加者 S G H関係校教職員、静岡県内高等学校教員他 計67人

内 容 本年度事業・成果報告、講演(立教大学 松本茂教授)

(ウ) 校内研修

・ファシリテーション力向上講座 平成28年6月15日(水)、22日(水)

講師 常葉大学 久米昭洋准教授 対象 1年L W I担当教員対象

・課題研究指導力向上講座 平成28年7月6日(水)

講師 関西学院大学 客野尚志教授 対象 全職員

(I) 「S G H国際交流だより」 83号 から 106号の発行(平成29年2月15日現在)

7 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 本構想において実現する成果目標の進捗状況

「将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合」は、前年度から14ポイント増加し、約半分となった。また、公的機関から表彰された生徒数は、25人に上り、最終年度の目標をすでに達成している。一方「自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数」「自主的に留学又は海外研修に行く生徒数」は横ばいである。

「卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベル（英検2級～準1級・TOEFL57点程度以上）の生徒の割合」は、実用英語検定2級の受験会場となった今年度は、22%となっている。（報告書p.12参照）

(2) グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標の進捗状況

「課題研究に関する国外の研修参加者数」「課題研究に関する国内の研修参加者数」「課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数」は横ばいである。「課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数」は減少したのに対し、「課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数」は増加している。

(3) 育みたい資質・能力の伸長（報告書pp.13-16参照）

2年生を対象とした、生徒の自己評価を聞くアンケートの質問項目を「発信力」「問題解決能力」「課題設定力」「コミュニケーション能力」「行動力」の5つの資質・能力の指標として分類し、肯定的な評価をした生徒数割合を経年で分析した。いずれの自己評価も、1年時からポイントを増やしている。特に「課題設定力」は1年時10月が47.9%だったのに対し2年時11月では64.9%と17.0ポイント、「行動力」は52.9%が66.4%と13.5ポイントの伸びを見せた。

1年生のアンケート結果も上記の5つの資質・能力に従って分析すると、前期から比較し、「コミュニケーション能力」が42.8%から74.7%、「発信力」が44.2%から66.8%と大きく伸び、自信を持つ生徒が増えている。また、現2年生の1年時アンケート結果と比較すると、5項目いずれも増加しており、平成27年度の反省事項を活かした平成28年度のシラバスが、有効に機能したことがわかる。

<添付資料> 目標設定シート

8 次年度以降の課題及び改善点

(1) 学校設定科目における課題研究内容の深化

ア 課題意識

生徒の課題研究の内容を深めたい（個々の研究として価値あるものにしていきたい）。

イ 改善点

- ・海外高校との共同研究、海外研修先の研究フィールド訪問にむけ、シンガポールの中
等教育学校と長期提携に向け協議中
- ・優れた課題研究テーマを単年度で終わらせないために課題を引き継ぐための方策として、
先輩の研究をキーワードで検索できるレジュメ集の作成を準備中

(2) 個々の生徒内の興味関心を広げる手立て

ア 課題意識

個々の生徒の興味・関心を、水問題から地域や社会の課題へと広げたい。

イ 改善点

- ・2年次後半に個人論文を完成し、3年次「英語表現」で課題研究の個別英文レポート
作成を予定
- ・個々の生徒の資質能力の伸長を可視化するポートフォリオの利用を検討

(3) 教科教育の取組改善（シラバス整理 / 通常授業と研究課題の連携）

ア 課題意識

通常授業と研究課題の連携やS G H事業を一般教科の授業改善に繋ぐ必要がある。

イ 改善点

- ・各教科のシラバス内で、S G H関連の内容を明確に示す。
- ・一般の授業で評価方法や指導プログラムにS G H課題研究の成果や内容を活用する。

(4) 取組の可視化

ア 課題意識

事業実績を検証し、客観的な評価を可視化していくことが必要である。

イ 改善点

- ・学校設定科目の授業案やワークシートを蓄積し、公開していく。
- ・生徒対象アンケートを生徒個々の評価につなげる方策や、生徒の能力を客観的に測る方
策を探っていく。

【担当者】

担当課	高校教育課	T E L	054-221-3165
氏 名	河田 純次	F A X	054-221-3685
職 名	指導主事	e-mail	junji1_kawata@pref.shizuoka.lg.jp

ふりがな	しずおかけんりつしみぎたこうがっこう	指定期間	26～30
学校名	静岡県立三島北高等学校		

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		150人	138人	138人			200人
	SGH対象生徒以外:		人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 授業改善の取組が学年進行にしたがって進み、研究開始後3年で意欲関心を持つ生徒が全校の25%を占めることを目標とする。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		21人	19人	20人			30人
	SGH対象生徒以外:		8人	6人	人	人	人	人
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		-	35%	49%			70%
	SGH対象生徒以外:		50%	50%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 留学意識調査に基づく推計だが、大学在学中の留学意識は現在でも高い。大学入学後に高くなることが推測される。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		2人	6人	25人			20人
	SGH対象生徒以外:		0人	0人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 具体的にどのような大会があるかが調査不十分であるが、数値目標は3%とする。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベル(英検2級～準1級・TOEFL57点程度以上)の生徒の割合								
e	SGH対象生徒:				22%	%	%	60%
	SGH対象生徒以外:		-	-	-	-	-	%
目標設定の考え方: 研究が全校体制となる4年目以後は割合が安定すると考えられる。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0人	0人	12人	298人	303人			300人
目標設定の考え方：2年目までは課外活動が中心。3年目以後修学旅行で研修に参加する。短期留学への意欲も高まると考えられる。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	0人	0人	80人	162人	168人			600人
目標設定の考え方：初年度は課外活動が中心。2年目以後学年進行で研究事業に参加する。最終学年は40名前後に対象生徒を絞り込むため。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	0校	0校	2校	4校	4校			6校
目標設定の考え方：現地協力校から始め、毎年協力相手校を1校ずつ拡充していく。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	0人	0人	39人	125人	60人			100人
目標設定の考え方：初年度は教員研修が中心。2年目以後は教員、1年生。3年目以後に1,2学年で大学教員、学生と協力する。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	0人	0人	35人	25人	98人			50人
目標設定の考え方：企業との探究・体験活動を軸とするため複数回の研修機会が必要である。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	0人	0人	114人	150人	160人			20人
目標設定の考え方：高校生英語ディベート大会、スピーチコンテストが中心。国連機関主催事業への応募が見込まれる。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	12人	2人	0人	3人	2人			20人
目標設定の考え方：初年度から各クラス1名程度までの留学生の受け入れが可能である。								
先進校としての研究発表回数								
h	0回	0回	1回	3回	3回			1回
目標設定の考え方：毎年の県内対象と隔年の全国対象発表会を実施する。視察は随時受け入れる。								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	×	×	△	○	○			○
目標設定の考え方：初年度中に課外活動で準備を進め、2年目以後は完成し、随時更新する。								
j								
目標設定の考え方：								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	843	844	874	869	866		
SGH対象生徒数			287	576	866		
SGH対象外生徒数			587	293	0		

< 写真で振り返るSGHの1年間 >

4月11日 初期指導：2年生のプレゼン



4月20日 LWI：(公財)河川財団の授業



6月1日 LWI：大学生の支援



6月17日 GWI：専門家の支援



7月29日 異文化理解講座：ベトナム文化を知る



8月5～12日 エンパワーメントプログラム



第1章 平成28年度SGH研究開発の成果と課題の分析と検証

1 自己評価

(1) GTEC、英語検定試験、コンテスト参加実績等から見える成果

ア GTEC技能別スコア

SGH対象生徒が一部だった平成26年度入学生が、1年次から2年次にかけての伸びが27.9点だったのに対し、平成27年度入学生は37.5点伸びている。特にリスニングの伸びが顕著で、オーラルコミュニケーションの力が伸びていると思われる。スピーキングの結果が出たところで、改めて分析をしていきたい。また、平成28年度入学生については、ライティングの平均点が2年生よりも高く、英語を書くことに慣れ力がついてきていることがわかる。

(R:リーディング、L:リスニング、W:ライティング、T:左記3技能計、S:スピーキング)

	H26入学生					H27入学生					H28入学生				
	R	L	W	T	S	R	L	W	T	S	R	L	W	T	S
H26.12	166.6	187.0	114.2	467.9	94.3										
H27.12	180.1	195.9	119.8	495.8		168.7	185.0	117.1	470.8	96.5					
H28.12	-	-	-	-	-	181.3	204.7	121.9	508.3		170.8	191.1	123.3	485.3	

イ 実用英語検定試験結果(合格者数/受検者数)

SGH指定時に「卒業時の英語検定2級以上合格者60%」を目標とし、全生徒の在学中の2級受検を推奨した。今年度より2級の筆記及びリスニング試験の校内受検を開始し、受検者数が増え、合格者数も前年度28人から123人と大きく伸びた。また2年生国際交流室の生徒が1級に合格した。

級	準2級			2級			準1級		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
~前年度	-	18	39	-	2	26	-	-	-
第1回	3/3	7/7	1/1	1/3	16/31	29/56	0/0	0/1	1/6
第2回	1/2	2/2	3/3	6/9	9/25	8/12	0/1	0/4	0/1
第3回	14/19		-	6/17	47/163	1/1	0/3	0/13	-
小計	18/24	9/9	4/4	13/29	72/219	38/69	0/4	0/18	1/7
計	31/37			123/317			1/29		

ウ ケンブリッジ英検 First Certificate in English(FCE)

平成26年度入学生2人受検/Pass at Grade B 1人

平成27年度入学生3人受検/Pass at Grade C 1人

エ コンテスト参加実績他

(ア) 静岡県高校生英語スピーチコンテスト 県大会出場1人

(イ) 第1回関東・甲信越静地区スーパーグローバルハイスクール課題研究発表会

英語によるポスターセッション発表部門 銀賞 銅賞

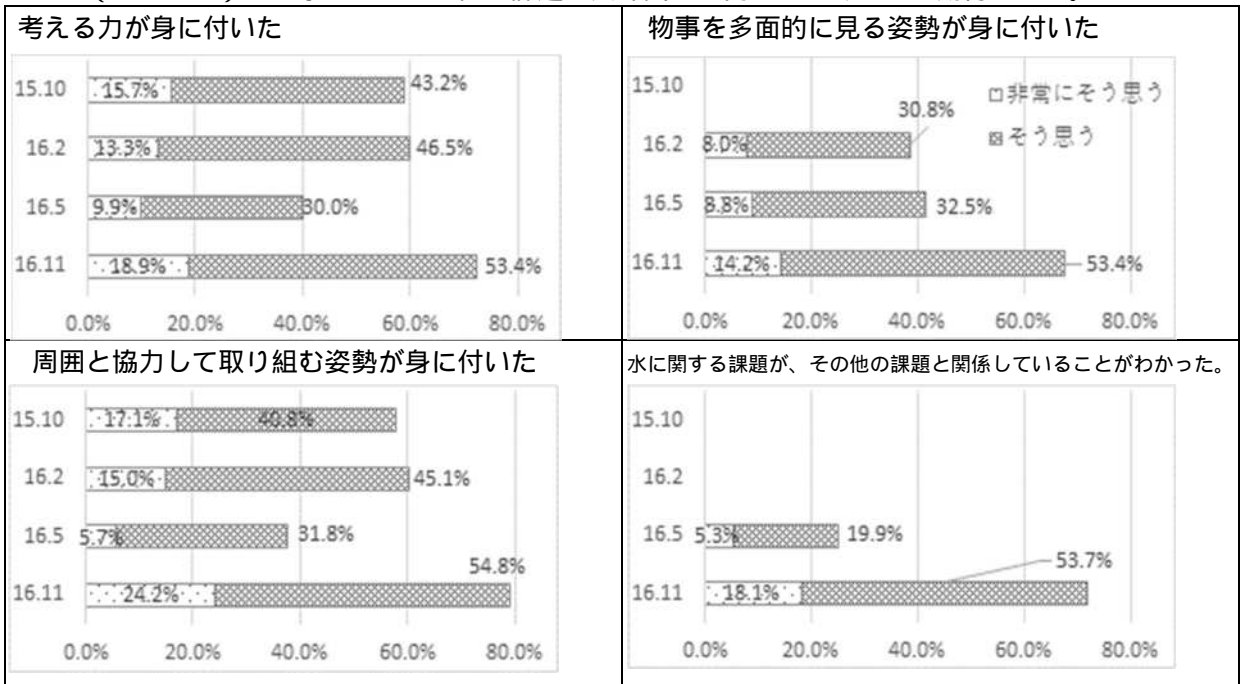
(ウ) JICAグローバル教育コンクール2016写真部門 団体奨励賞

(2) アンケート結果から見える生徒の変容 (cf. pp.61-64)

ア 2年生(平成27年度入学生)の結果

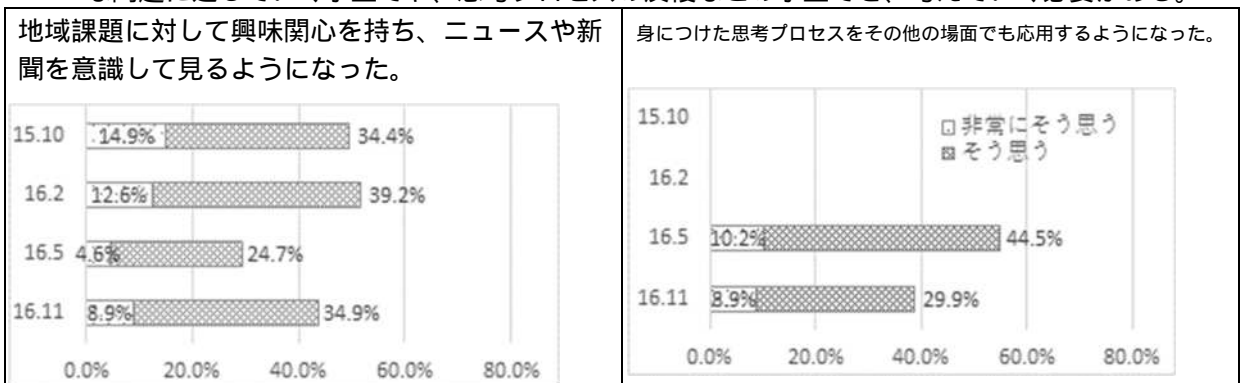
(ア) 肯定的な回答が増加した項目

肯定的な回答の増加傾向が顕著なのは、「考える力が身に付いた」「課題解決をしていく上で物事を多面的に見る姿勢が身に付いた」「周囲と協力して取り組む姿勢が身に付いた」「自分で設定した水に関する課題がその他の課題と関係していることがわかった」の4項目である。これらの項目は、コミュニケーション能力や問題解決力について、生徒の自己評価の高まりを示していると考えられる。また、「自分で設定した水に関する課題がその他の課題と関係していることがわかった」と回答した生徒は7割に及び、水問題をきっかけに、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」に挙がっている他の課題に興味関心が向いていくことが期待できる。

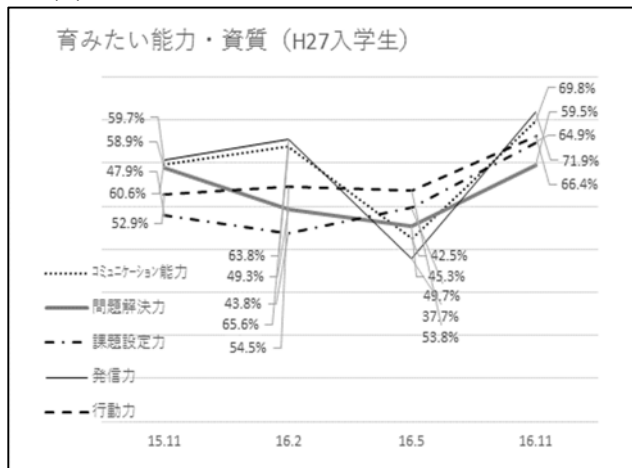


(イ) 肯定的な評価が減少している項目

肯定的な評価をする生徒が少なくなっているのは、「地域課題に対して興味関心をもち、ニュースや新聞を意識して見るようになった」「SGHで身に付けた思考プロセスをその他の場面でも応用するようになった」の2項目である。地域課題に関する項目からは、1年次に地域の、2年次に世界の水問題を扱い、興味関心を広げたあと、それを再び地域への関心に戻していく手立てが不十分であることを示していると思われる。また、興味関心が、「ニュースや新聞を意識して見る」という行動に結びつくまでに至っていない状況も考えられる。思考プロセスは、課題研究のテーマを設定して探究していく過程が、その他の課題解決方法にも応用できるとの認識が高まっていないことを示しているのではないかとと思われる。これらの課題をうけ、興味関心を身近な問題に戻していく手立てや、思考プロセスの反復などの手立てを、考えていく必要がある。



(ウ) 育みたい資質・能力の伸長

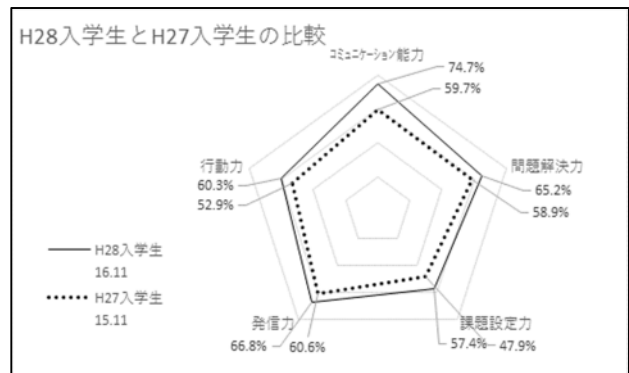
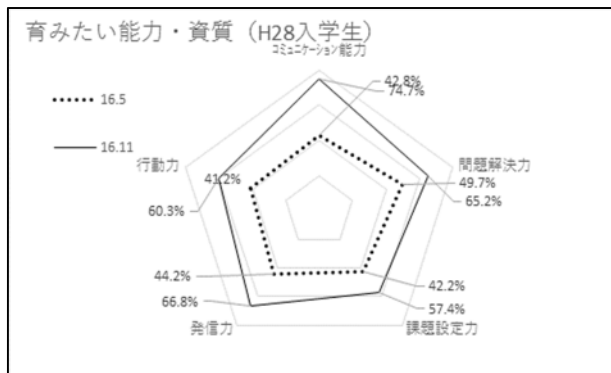


これまでのアンケートの質問項目を「コミュニケーション能力」「問題解決力」「課題設定力」「発信力」「行動力」の5つの資質能力の指標として分類し、肯定的な評価をした生徒数割合を経年で分析すると、2年の前期でいったん落ち込みを見せ、その後再び回復している傾向がある。特にコミュニケーション能力の部分で落ち込みが大きいのが、要因としては、2年生になり、英語で課題研究を進めることになり、自信を失った生徒が多かったこと、しかし、苦勞を乗り越えて、自分の身に付いた力に自信を持てるようになった変容が考えられる。

グラフ内の数字は、上から項目順。

イ 1年生(平成28年度入学生)の結果

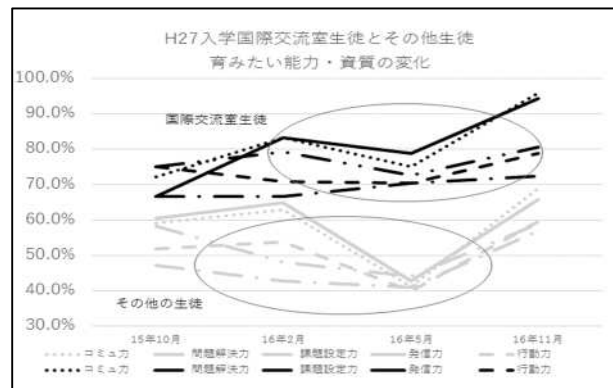
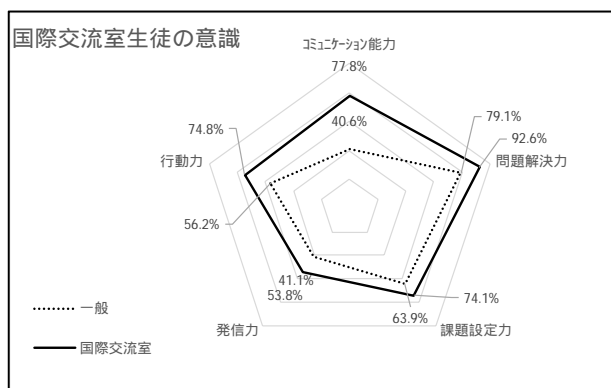
1年生の結果では、全項目に伸びが見られた。これを5つの資質能力に従って分析すると、特にコミュニケーション能力や発信力に自信を持つ生徒が増えているのがわかる。また、現2年生の1年時アンケート結果と比較すると、全体の面積が増えていることから、昨年度の反省事項を活かした今年度のシラバスが、有効に機能していたことがわかる。



ウ 国際交流室 生徒の結果

S G H事業に特に熱心に取り組み、海外研修や、英語ディベート大会への参加により力を伸ばしている国際交流室の生徒のデータを抽出すると、他の生徒とくらべ、コミュニケーション能力に対する自信が特に高くなっているのがわかる。2年生の国際交流室生徒について経年変化を比較するとスタート時の数字から差があり、国際交流室の生徒が入学時から興味関心が高かったことは確かだが、2年生前期の落ち込みが少ないなど、モチベーションが継続していることがわかる。特に発信力の伸びが大きく、様々な発表の機会が与えられることで、自信に繋がる傾向が理解できる。

国際交流室：海外研修参加者やディベートに興味がある者など有志生徒で構成する同好会。



(3) 教員対象アンケート及び保護者対象アンケートの結果及び分析等 (cf .pp.65-66)

ア 教員対象アンケートの結果

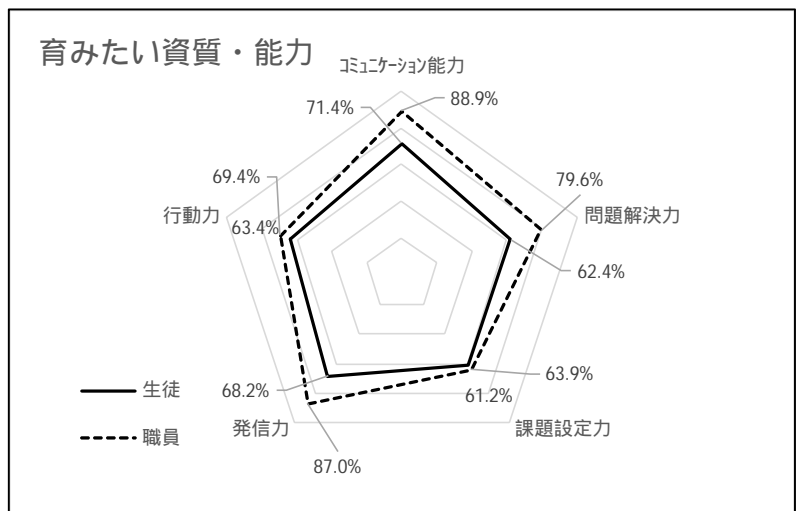
今回、教員を対象としたアンケートは、全職員を対象に実施し、S G H 授業担当者 (学校設定科目を実施している教員) 17人、その他教員13人計30人から回答を得た。

S G H 授業担当者対象の調査では、生徒の自己評価アンケート項目に準じ、S G H 授業を通して生徒の身に付いたと思われる力等について、質問した。

「非常にそう思う」「そう思う」の回答が多かった項目	
考える力が身に付いた	94.4%
自分の考えを他者が理解できるよう伝える力が身に付いた	88.9%
日本語で自分の意見や考え、探究の成果を多くの人に伝える力が身に付いた	94.4%
周囲と協力して取り組む姿勢が身に付いた	94.4%
「非常にそう思う」「そう思う」の回答が少なかった項目	
社会貢献活動や自分を高めるための活動に積極的に取り組むようになった	44.4%
進路選択に影響を与えた	33.3%

他の項目も肯定的な回答が多かったが、肯定的な回答の少なかった2項目からは、生徒対象アンケート結果同様、興味関心が行動に結びつくまでに至っていない状況が、教員の視点からも確認できた。興味関心を身近な問題に返していく手立ての開発は、取り組むべき課題であることが裏づけられた。

アンケートを、5つの「育みたい資質・能力」に従って分析すると、いずれの力も、生徒が思っているよりも、教員の評価が高いことがわかる。特にコミュニケーション能力、発信力及び問題解決力は、生徒の自己評価と比較すると、教員の方が高く評価している。教員側の評価が、個々の生徒の資質や能力に対するものではなく、全体に対するものであることは考慮すべきだが、特に問題解決力については、生徒の自己評価を伸ばす支援の必要性が感じられる。また、コミュニケーション能力・発信力を伸ばす教育内容が充実している一方で、実際の行動に移す心構えを育て切れていないことが、生徒アンケート結果と同様に示されていることから、自ら社会や地域の課題に取り組む行動意欲を育む手立てを探ることが課題である。



その他の教員も対象とした調査では主に、OECDが実施している「国際教員指導環境調査」の指導実践、教員の信念、自己効力感に関する項目を利用した。SGH担当者とその他の教員で大きく差異が見られたのは、以下の3項目である。

質問項目	SGH担当	その他
勉強にあまり関心を示さない生徒に動機づけをしている	83.3%	60.0%
多様な評価方法を活用している	72.2%	33.3%
アクティブ・ラーニングの手法を取り入れて授業を行っている	83.3%	60.0%

SGH学校設定科目の指導により、ファシリテータとしての働きが身に付いてきていること、テストの点数のみに頼らない評価の在り方の工夫が普段の教育活動に生かされていることがわかり、事業に関わることが教員としての資質向上を促しているものと考えられる。今後SGH授業担当を副担任にも広げ、全職員体制を確立していきたい。

イ 保護者対象アンケートの結果

保護者対象アンケートとして、学校生活に関するその他の項目と共に、SGHに関連し、「お子さんはSGH事業を通じて地域や社会の問題に対する興味・関心が高まった」「お子さんはSGH事業を通じて英語力や国際性が高まった」「本校でSGH事業に参加できたことは、お子さんにとって良かったと思う」の3項目を質問した。

「とてもそう思う」「そう思う」の回答割合	1年生	2年生	3年生
お子さんはSGH事業を通じて地域や社会の問題に対する興味・関心が高まった	67.2%	70.0%	42.3%
お子さんはSGH事業を通じて英語力や国際性が高まった	56.3%	60.3%	47.9%
本校でSGH事業に参加できたことは、お子さんにとって良かったと思う	87.5%	80.0%	67.6%

前者の2項目は、全員が事業に参加している2年生・1年生の保護者と、一部生徒のみの参加にとどまった3年生の保護者では、肯定的な意見の割合が確実に違う。一方、3項目目は、学校の取組として、事業を肯定的に捉えた保護者の方が多く、全体への波及効果が大きかったことが理解できる。

2 外部評価及びそれに対する改善・対応状況等

(1) 中間評価 結果とこれまでの改善・対応状況

S G H指定3年目に実施される有識者による研究開発の進捗状況等の評価。

ア 評価結果

これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。(6段階のうち、上から3段階目に該当)

イ 評価コメント

全校生徒をS G Hの対象として取り組んでおり、課題研究だけでなく、各教科においてアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善への取組がなされている点が高く評価できる。

運営指導委員会の助言を受けて改善に結びつけている点が評価できる。全生徒を対象としたグローバルマインドの育成方法等のモデルとなりうるので、今後も継続願いたい。

効果および課題がまとめられており、全体の学生の52%がグローバルな意識を持つようになった背景分析については明確である。水問題に関する問題意識を持たせる努力は評価できる。また水問題から環境・貧困問題などに生徒の興味が広がっているのは、良い傾向であるので、積極的に研究課題を広げていく事を奨励する。

ウ ヒアリングでの評価コメント(平成28年6月29日)

教師側の意識の変容がわかるとよい。

英語以外の教科との連携が必要である。

目標値として、最終的な生徒の「伝える力」のゴールを設定する必要があるのではないか。

グローバルリーダーとしての生徒の意識の変容がわかるとよい。

エ 中間評価結果を受けた今年度の改善・対応状況

(ア) 生徒の興味関心を広げる手立て

- ・学校設定教科におけるチームでの課題研究終了後、個人のレポート作成(3年1学期まで)
- ・個々の生徒には、自らの課題意識とSDGsを繋げて考える機会を設定
- ・進路意識への繋がりをはかるため、現3年生のS G H事業参加者の進学実績を整理中

(イ) 教師の意識変容理解に向けた方策

- ・OECD国際教員指導環境調査を参考に、教員対象アンケートの項目を改善
- ・S G H担当者以外もアンケート対象とし、意識の変容や違いを分析

(ウ) 学校設定教科以外の教科との連携

- ・現代社会の授業で、水問題に関する単元を実施(4月から5月中旬まで)
- ・S G H関連授業シラバスに沿って、各教科で「水」に関する単元を実施
- ・「英語表現」でのエッセイライティング、「コミュニケーション英語」でのポスター及びプレゼンテーション作成の支援

(エ) 生徒のゴール設定・グローバルリーダーとしての生徒の意識変容の理解

- ・シラバスやルーブリックと連動するCan-Doリストの作成
=カリキュラム・マネジメントモデルの構築
- ・評価指標として活用できる生徒対象アンケートの整理、実施及び分析

(2) 運営指導委員会の記録とこれまでの改善・対応状況

ア 第1回運営指導委員会における指摘事項（平成28年10月19日実施）

(ア) 事業成果の普及

- ・パーツとしての個々の取組や教育方法が他校で使えるよう提案することも必要ではないか。
（企業との連携、英語によるプレゼンテーション、課題事項 等）

(イ) 評価方法

- ・評価の客観化のためには、評価項目を明確にし、個人的/主観的な判断を避けるようにすべき。
- ・生徒の取組をポートフォリオで残していくこともできるのではないか。
- ・定量化できるものは可視化し、定性的な項目は事業として実行していくことが大切。

(ウ) 教育内容（英語教育・国際化教育）

- ・県内企業の海外支店など、海外の企業体験などもメニューに入れていけるのではないか。
- ・教科横断的に社会課題を扱う際、課題を知り、原因を理解し、伝えるまでが重要。
- ・課題研究の充実に向け、オリジナリティのある一次的なデータを継続して取ることが大切。

イ 第1回運営指導委員会の指導内容を受けた改善・対応状況

- ・取組の全体像が見える報告書作成並びに学校設定科目指導案や教材のデータ蓄積及び公開
- ・課題提示、課題設定及びポスター作成時の大学、企業及び公共機関との連携 課題研究の深化

ウ 第2回運営指導委員会における指摘事項等（平成29年2月20日実施）

(ア) 客観的なデータ分析や評価に向けた高大連携について

- ・論理的思考力や課題設定力の育成・測定・評価の方法は、教員養成学部でも今後扱うべき課題である。PBL指導ができる教員を育てるために一緒に何ができるか考えていけるかもしれない。
- ・論理的思考力とは即ち数学力であり、必要十分条件・数学的帰納法・修辞学の理解であり、全教科で取り組めることではないか。客観的に真実を見抜く力を付けることが極めて重要。

(イ) 課題研究の深化について

- ・インターネットや書籍からの引用ではなく、原著論文（一次論文）を読んでいくのはどうか。
- ・課題研究に工学アプローチが続いている。災害対策など社会的なアプローチでも進めると、視野が多角化し、深化に繋がるのではないか。
- ・2年生による1年生へのメンター制度なども考えられるのではないか。

(3) 次年度以降の方向性

ア 課題研究内容の深化

- ・海外高校との共同研究、海外研修先の研究フィールド訪問に向け、シンガポールの中等教育学校と長期提携に向け協議中
- ・優れた課題研究テーマを単年度で終わらせないために課題を引き継ぐための方策として、先輩の研究をキーワードで検索できるレジュメ集の作成を準備中

イ 個々の生徒内の興味関心を広げる手立て

- ・3年次「英語表現」で課題研究の個人英文レポート作成を予定
- ・生徒の作品や資質・能力の伸びをポートフォリオで残していく取組をしていく予定

ウ 教科教育の取組改善（シラバス整理/通常授業と研究課題の連携）

- ・各教科のシラバス内で、SGH関連の内容を明確に示す。
- ・一般の授業で評価方法や指導プログラムにSGH課題研究の成果や内容を活用する。

第2章 実施報告書

1 全生徒対象プログラムの開発

(1) 指導体制と指導方法

ア 指導体制

(ア) S G H運営委員会（校内分掌として位置づけ）

構成：教頭（責任者）、S G H推進室長、補佐 各1人（他の分掌には就いていない）

1・2年学年主任各1人、学級担任14人、ICT担当、評価担当者等 計24人

業務：学校設定科目の指導計画や授業実践、諸事業の立案実施

年複数回集まり、P D C Aサイクルによる見直しや確認を実施

(イ) 学校設定科目 L W I（Local Water Issues）、G W I（Global Water Issues）

	L W I（1年生） （「コミュニケーション英語」1単位減）	G W I（2年生） （教科「情報と社会」2単位代替）
時 間	毎週水曜日1時間（次ページ時間割参照）	毎週木・金曜日2時間連続（同左）
担当者	ファシリテータ：1年担任・副担任（T T） 担当者の専門教科：英語、数学、国語、理科、地歴、公民、保健体育 水に関する知識： 本校S G H推進委員・橋本淳司氏	1時間目：2年担任・海外交流アドバイザー（T T）担当者の専門教科：国語、英語、数学、理科、地歴、公民、保健体育 2時間目：教科「情報」担当教員が主、担任または海外交流アドバイザーが補助
内 容	テーマ：「地域の水問題」 ・初期指導で専門家による講義を聞いた後、各自が研究テーマを絞り、4～6人程度のチームを編成し探究学習を進める。 ・夏休みにフィールドワークを実施。 ・日本語レジュメ、ポスター作成後、日本語でプレゼン、ポスターセッション。次に英語版ポスターを作成し、英語でプレゼンとポスターセッションを実施。	テーマ：「世界の水問題」 ・専門家による講義受講後、各自で興味のある分野について個人探究し英語レポート作成。それに基づき4～6人のチームを編成しテーマ決定後探究学習を進める。 ・英語版レジュメとポスターを作成し、英語でプレゼンとポスターセッションを実施。
場 所	図書室及び地学室（Wi-Fi環境を整備済み）	1時間目：図書室及び地学室 2時間目：パソコン室

(ウ) 授業担当者打合せ会議＜L W I（水6限）、G W I（水7限）＞

出席者：推進室長、補佐、学年主任、全クラス担任、海外交流アドバイザー、教頭、橋本委員等

内 容：授業の振り返りと翌週の授業打合せ（授業案、ワークシート等提示）

各クラスの進捗状況の確認、授業展開上の工夫、苦労した点などを担当者が共有

その他：橋本推進委員は、担当教員への情報提供や生徒の取組状況の共有などを行う。

外部支援者（企業、NPO法人、大学関係者、大学生（院生）など）による授業支援があったときは、支援者も参加し、連携協力体制を深めている。

(I) その他

平成28年度は全職員の57%がS G H関連学校設定科目の授業に携わった。平成29年度は、1・2年両方で正副担任によるT Tを実施、3年でも「英語表現」の時間を利用してS G H関連授業を行い、全職員での指導体制としていく予定。

(参考) 平成 28 年度の L W I ・ G W I の時間割

	水曜日		木曜日		金曜日	
1 限	(外部支援者を招聘する日は、事前打合せ)					
2 限	L W I 11HR		G W I 24HR		G W I 21HR	
3 限	L W I 16HR	L W I 17HR	G W I 24HR	G W I 22HR	G W I 21HR	G W I 25HR
4 限	L W I 13HR	L W I 14HR		G W I 22HR		G W I 25HR
5 限	L W I 12HR	L W I 13HR	G W I 26HR		G W I 27HR	
6 限	L W I ミーティング		G W I 26HR	G W I 23HR	G W I 27HR	
7 限	G W I ミーティング			G W I 23HR		
8 限	海外研修班 事前事後研修					

イ 指導方法

(ア) 授業シラバス作成 (cf. 参考資料 pp.55-58)

- ・橋本委員の指導の下、S G H 推進室担当者が年間シラバス作成 (前年度 2 月中)、S G H 運営委員会での検討、L W I / G W I ミーティングでの確認・修正。
- ・平成28年度はCan-Do リストを作成し、育成したい能力を各学年段階で「見える化」した。平成29年度以降は、これに基づき、3年間の系統的且つ組織的な指導体制をとっていく。

(イ) 授業案・教材作成 (cf. pp.25-28)

- ・橋本委員の指導・助言を受け、S G H 推進室担当者が毎時間の授業案・ハンドアウト・振り返りシートの原案作成。
- ・毎週の打合せ会議で確認・修正。

(ウ) 指導方法の特徴

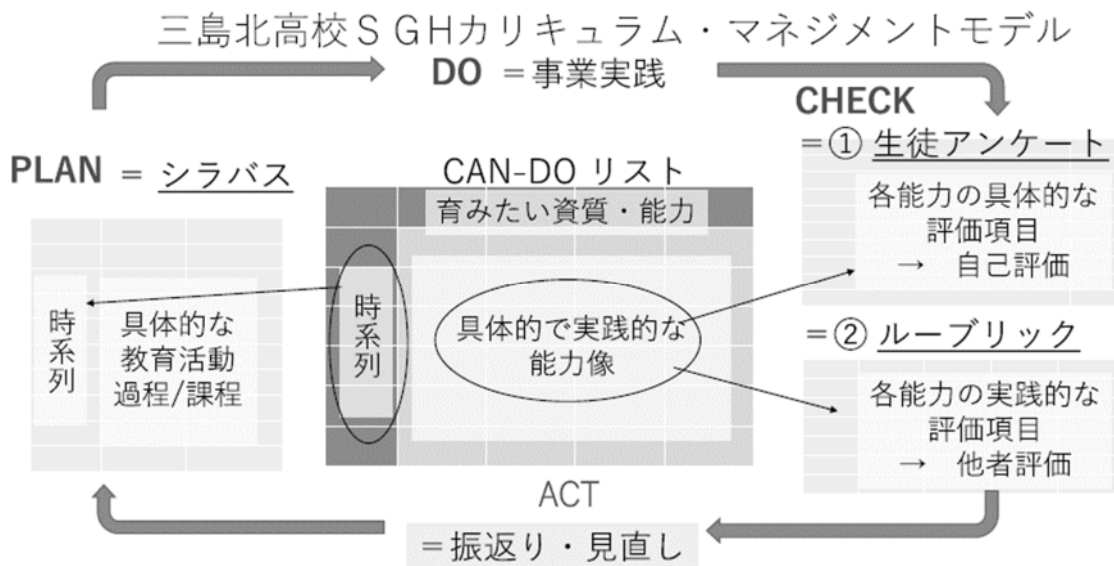
- ・学習方法として問題基盤型学習 (P B L)、アクティブ・ラーニングを活用。担当者はファシリテータの役割を担う。
- ・毎時間振り返りシートを記入し、成果物と共に保管。
- ・反転学習や専門家との連携のためClassi (学校向け授業・学習支援クラウドサービス) を活用。
- ・各チームに 2 ~ 3 台程度のタブレット整備 (現在35台)

(エ) 外部支援者との連携 (cf. pp.37-38)

L W I (1 年 生)	G W I (2 年 生)
探究学習支援 (専門家、企業、N P O 法人等)	
4 月 : 初期指導 (水問題に関する講義)	前年度 3 月 : 課題研究テーマ発見補助
6 月 : チームの課題設定への助言、研究資料紹介	6 月 : 課題研究計画策定支援
9 月 : 課題研究補助 (ポスター作成前支援)	9 ・ 10 月 : ポスター作成支援
英語支援	
11 月 : 英語版ポスター作成支援	10 ・ 11 月 : 英語版ポスター作成支援
1 月 : 英語版ポスターセッション練習補助	1 月 : 英語版ポスターセッション練習補助

(2) カリキュラム・マネジメントモデルの構築

平成27年度末の運営指導委員会で求められたCan-Do リストの早期作成は、本校のこれまでの教育課程研究活動に、カリキュラム・マネジメントの意識的な導入がなされていなかったことへの反省にもつながった。そのため、これまで実施してきた各事業を統合的に捉え、分析や評価をしていくために、本校SGH事業のカリキュラム・マネジメントモデルを構築することとした。(下図参照)



モデルでは、本校がSGH事業で育みたい資質や能力を時系列に合わせて具体的な能力像として示したCan-Do リストを中心に据えた。そしてシラバスを「Can-Do リストの時系列に沿った、各能力を育てるために必要と考えられる教育活動の過程/課程」として「計画=PLAN」の位置におく。教育活動実践後、「生徒が実践によって伸ばした能力を、教員が評価するための具体的な項目とその基準」であるルーブリックと、「Can-Do リストの時系列に合わせ、生徒が自分自身の能力の伸張を評価するための具体的な項目とその基準」である生徒アンケートを「評価=CHECK」媒体とし、その結果を振り返ることで、次年度以降の「改善=ACT」につなげるPDCAサイクルを確立していくこととした。

平成28年度は、このモデルのうちCan-Do リスト (cf. p.22) の作成と生徒アンケート (cf. p.59) の見直しを行い、これまでのデータの蓄積を有効に活用しながらも、平成29年度以降の事業につなげられる項目で調査を実施した。また、シラバス (cf. pp.55-58) とルーブリック (cf. pp.23-24) も、アンケート結果に基づいて改善事項を見極め、このカリキュラム・マネジメントモデルに合わせてより良いものとしていくため、継続して検討中である。

SGH事業の完成は、SGHのCan-Do リストにある「育みたい資質・能力」を学校の教育課程全体で共有し、各教科・科目のシラバスに繋がる状態となることではないかと考える。そのためにも、学校全体の「育みたい資質・能力」が、SGH事業の「育みたい資質・能力」に反映されているかどうか、不断の見直しが必要であり、生徒の実態の変容を把握しながら、本校の教育目標に合致した方向でSGH事業の推進をはかっていきたい。

(3) 静岡県立三島北高等学校スーパー・グローバル・ハイスクール Can-Do リスト

活動内容		課題解決力		コミュニケーション能力	
		課題の発見	持続性、多様性への配慮	合意の形成	英語による発信力
2年間の研究をもとに、個人でテーマを設定し、日本語論文(2000字以上)と英語レジュメ(400字程度)を作成し発表できる	3年	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活において、対応が必要な事態に気づき、解決すべき課題を特定することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活において、持続性、多様性に配慮した行動をとることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活において、話し合いにより、価値観の相違や利害の対立を克服できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 6割の生徒が英語検定は2級以上を取得できる。 社会問題や身近な事象について、根拠を示し、効果的に自分の意見を述べることができる。
世界の水問題について、グループで課題設定し、解決策を探る。英語ポスター・レジュメを作成し、英語で発表できる	2年後期	<ul style="list-style-type: none"> 考案した解決策について、実効性、実現性等を検証し、改善することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 持続性、多様性に配慮した課題解決策を提案できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見、主張が異なる相手と、お互いが納得できる形で妥結できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査した事柄を、パラグラフ構成・段落構成を意識して書いたり、視覚的補助を用いてわかりやすい英語で発表することができる。 発表内容を聞いて概要を理解できると同時に、英語で簡単な質疑応答ができる。
	2年前期	<ul style="list-style-type: none"> 有用な情報を統合し、課題の解決策を考案できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決策を考案するにあたり、持続性、多様性の確保に留意している。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見、主張が異なる相手と、お互いが納得できる形での妥結に向けた協議ができる。 	
地域(日本)の水問題について、グループで課題設定し探究する。英語ポスター・レジュメを作成し、発表できる	1年後期	<ul style="list-style-type: none"> 収集した情報の信頼性・有用性を検証できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 持続性、多様性を確保することの重要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見、主張を、根拠や理由を明確にして伝えることができる。 理解した相手の意見、主張を、客観的に評価することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査した事柄を、わかりやすい英語でポスターにまとめ、発表することができる。 身近な事象について、英語で説明したり、自分の意見を述べるすることができる。
	1年前期	<ul style="list-style-type: none"> 複数の手段を用いて、課題の解決に役立つと思われる情報を収集できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 持続性、多様性の意味を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見、主張を正確に伝えることができる。 相手の意見、主張を正確に理解することができる。 	

(4) ルーブリック（学校設定科目の評価方法）

本校における学校設定科目LWIとGWIの評価は、「ア LWI・GWI評価用ルーブリック(ア)、(イ)」に基づいて、クラス担任が行う。

評価の観点は、「社会課題に対する関心 問題解決に向けての意欲と態度(活動)」、「問題解決力(課題設定から結果までの過程・論理的思考力)」、「コミュニケーション能力(発表)」、「深い教養(水知識)」の4つに大きく分けられる。この4つの観点を、下記アの(ア)の評価基準において、グループ活動などで主導的な立場で活動したり、聞き手に分かりやすく発表や応答を行ったりすることができるかを評価することと、(イ)において、ポスターやレジュメ、レポートなどの成果物から、「問題解決力」が高まったり、情報を複数の側面から収集し、「深い教養」を身につけることができたかを評価することとに分けている。

また、最終評価は「LWI・GWI評価シート」に示したように、チーム(グループ)での活動と個人での活動を総合し、得点化して10段階で出している。

ア LWI・GWI評価用ルーブリック

(ア) 普段の授業(活動・発表)

	社会課題に対する関心 問題解決に向けての意欲と態度 (活動)	問題 解決力	コミュニケーション能力 (発表)	深い 教養
A	様々な活動において、 <u>主導的</u> 態度が見られた。	/	グループまたは個人の研究成果を聞き手に <u>分かりやすく伝えることができる。</u> <u>さらに、聞き手から質問された内容を理解し、答えることができる。</u>	/
B	様々な活動に参加する態度が見られた。		グループまたは個人の研究成果を聞き手に伝えることができる。	
C	様々な活動に全く参加しなかった。		グループまたは個人の研究成果を聞き手に伝えることができない。	

(イ) 成果物(ポスター・レジュメ・レポート)

	社会課題に対する関心 問題解決に向けての意欲と 態度	問題解決力 (課題設定から結果までの過程・ 論理的思考力)	コミュ ニケー ション 能力	深い教養 (水知識)
A	/	概要・研究目的・仮説が関連づけられており、 <u>なおかつ独自性・実効性がある。</u>	調査データを <u>適切に</u> 利用している。	グループまたは個人で設定した課題と水に関する現場に即した <u>複数の</u> 科学的な情報が複数の信頼できる出典から取り入れられている。
B		概要・研究目的・仮説が関連づけられている。	調査データを利用している。	グループまたは個人で設定した課題と水に関する科学的な情報が取り入れられている。
C		概要・研究目的・仮説の関連が不明瞭である。	調査データがないか、それが反映されていない。	グループまたは個人で設定した課題と水に関する科学的な情報が取り入れられていない。

「問題解決力」は、2項目に分けて評価する。

「深い教養」の評価について

複数の信頼できる文献を調べて違う視点から物事を述べているものを見つけて論じたり、実験・調査を十分に行って得た複数のデータを検証したりして、グループの立てた仮説に対する結果が述べられているものを「A」と評価する。

イ LWI・GWI評価シート

「イ LWI・GWI評価シート」はExcelファイルで、それぞれの観点についてA、B、Cの3段階で評価を行う。上記4つの観点をさらに8項目に広げ、重要度が高かったり、活動時間を要したりすると考えられるものに配点を高く付した(例:レジュメ・ポスター:50%、社会課題に対する関心20%など)。各クラス担当者は、A、B、Cのいずれか該当する評価の箇所に数字1を入れる。各項目の合計得点が下記評価シートの右から2列目のどの範囲に入るかで10段階評価される。例えば、HRNo.1の生徒は8項目すべてがB評価のため合計が60点で評価は6となる。この10段階評価の合計得点は評価3から9は8点刻み、その他は本校の実情に合わせて配分している。

評価ルーブリックは、校内で何度も会議を重ね、静岡県総合教育センター指導主事からの指導・助言もいただきながら簡潔なルーブリックとなるよう工夫を凝らした。

評価は年間を通じたもので、年度末のみ行う。昨年度初めてLWIの授業評価を行ったが、今回提示したものは得点配分についてなど細かな点で修正を加えたものである。

LWI・GWI評価シート

HRNo.	Name	チーム(グループ)												個人									合計	評価	合計得点	評価		
		プレゼン等 発表			レジュメ・ポスター						授業中の活動			レポート														
		コミュニケーション能力(発表)			問題解決力			深い教養			社会課題に対する関心			問題解決力			深い教養											
					概要・研究目的・仮説									調査データ						概要・研究目的・仮説							調査データ	
A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C								
1			1				1				1				1				1			60	6	92 ~ 100	10			
2		1				1				1				1				1				100	10	84 ~ 91	9			
3			1				1				1				1			1				56	5	76 ~ 83	8			
4		1					1				1				1				1			68	7	68 ~ 75	7			
5			1				1				1				1			1				62	6	60 ~ 67	6			
6			1				1				1				1			1				60	6	52 ~ 59	5			
7		1					1				1				1			1				74	7	44 ~ 51	4			
8			1			1				1					1			1				90	9	36 ~ 43	3			
9				1			1				1				1				1			42	3	20 ~ 35	2			
10			1			1				1					1			1				80	8	~ 19	1			
クラス合計・平均		3	6	1	3	7	0	3	7	0	3	7	0	3	5	2	2	8	0	4	5	1	2	7	1	69.2	6.7	
		A...15 B...9 C...3			A...15 B...9 C...3			A...15 B...9 C...3			A...20 B...12 C...4			A...20 B...12 C...4			A...5 B...3 C...1			A...5 B...3 C...1								
		15%			50%			20%			15%																	

(5) 学校設定科目開発教材例

学校設定科目では、毎時間全クラス共通の指導案・ワークシート・振り返りシートを作成し、打ち合わせで共有や訂正をしている。その一例を紹介する。

LWI 授業案 ⑨ 5/18 「チーム作りとテーマ決め、そして発表」

本時の目標：「共通のテーマ（日本の水課題）で探究していくチームを作る」
「チームで探究する課題を決定し、クラス内で発表する」

授業手法：グループワーク

観点：社会課題に対する関心・問題解決力・コミュニケーション能力・深い教養

準備物：タブレット15台、ホワイトボード8枚、(振り返りシート+A4用紙)×生徒人数分、生徒→「5月11日の振り返りシート」「LWI 授業年間予定表」

時間	活動 (T:Teacher / S:Students)	形態
3分	○T:本時の取り組み内容と目標について説明 (これからはチームで問題解決に取り組んでいく旨を説明する)	全体
2分	(1) S:前回の授業時に決めた「これから取り組みたい水課題」を確認し、A4用紙に書き込む	個人
2分	(2) 「グループ」と「チーム」の違いを認識する グループ:人の集まり チーム:同じく人の集まり、ただし、以下の3点を含む。 ・明確なゴールを共有している ・メンバーがゴールへと向かう思いをひとつにしている ・ゴールへ到達することをコミットしている	全体 (グループ)
12分	(3) 5人(6人)チームを作る[各クラス8チームまで] ※7チームが理想です グループの作り方: 課題を書いた「A4用紙」を持って教室を歩き、課題が共通する仲間を見つける。同じような課題の者同士が5人集まったらかたまって座る。	グループ
15分	「問題解決をすすめる5つの問いかけ」の概要説明 T「5つの問いかけをしながら問題解決をすすめていきます。5つの問いかけとは、①「うまくいっとなのか?」(現状と理想に着目する) ②「なんでや?」(原因を究明する) ③「で、どないすんねん?」(原因を把握し課題を設定する) ④「誰がや?」「何をや?」「いつまでにや?」「期待成果はなんや?」 ⑤「で、やったんか?」 『ここで目指すものは、自分たちで考えた仮の解決方法や調べ方を専門家にぶつけて、意見を聞くこと』 ※専門家は6月22日(水)に来校	全体 グループ
8分	(4) 「うまくいっとなのか?」(現状と理想に着目する) T「問題解決の第一歩は理想的な状態と現状を比べることからはじまります。水について考える前に、身の回りこと現状と理想を考えてみましょう」 理想)好きな彼と海に行く 現状)好きな彼と話もできない 理想)海外の大学に留学する 現状)英語で赤点をとった 理想)フルマラソンを完走する 現状)5キロ走ると息が上がる T「次にチームの水問題の現状とそれが解決された理想の状態について考えましょう」 ※「振り返りシート」への記入…	全体
5分	○ チームで考えた「探究課題」についてクラス内で発表する(各チーム1分)	個人
5分	(5) 「振り返りシート」の記入 -1 S:「自己評価」の記入(A, B, C, D) -2 S:「本時の振り返り」を書く -3 S:「Good Job Member」&「その理由」を書く	全体
2分	○T:次回予告6月1日「チームテーマの再考と発表」	全体

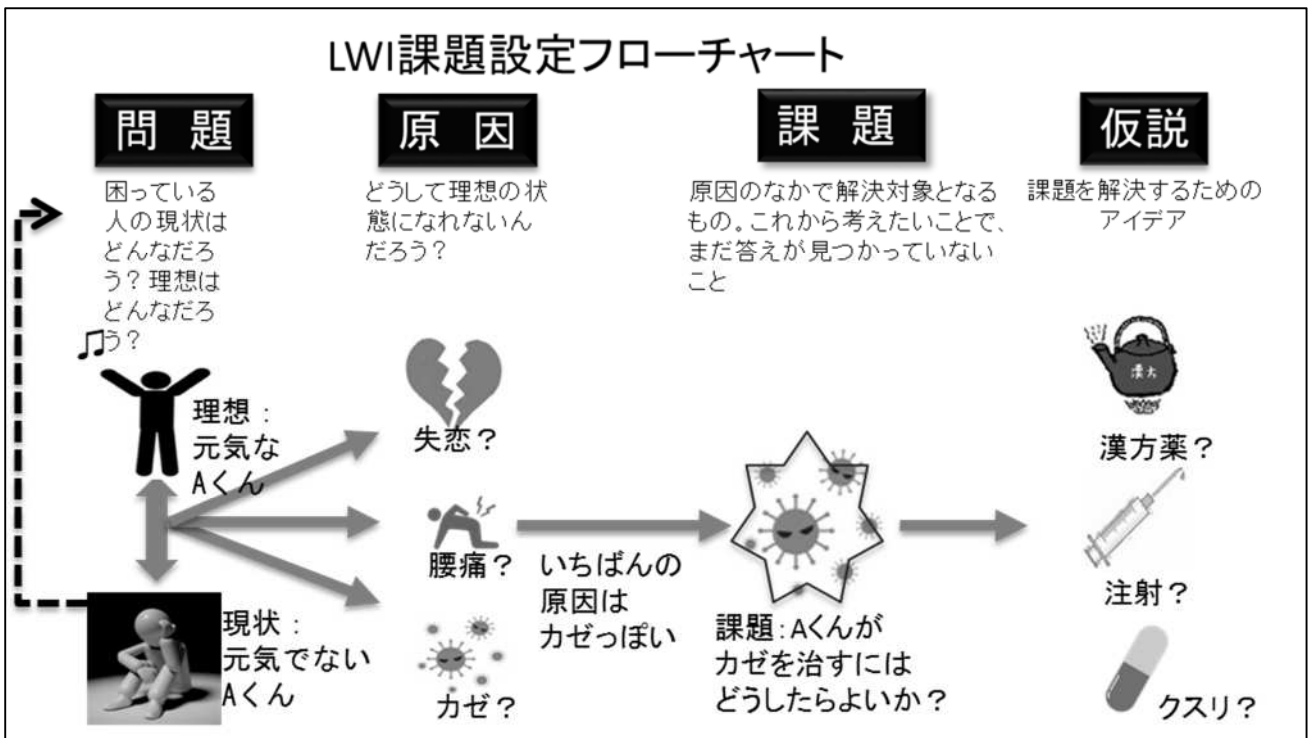
LWI 振り返りシート

第9回	平成28年5月18日(水)		
本時の目標	共通のテーマで探究していくチームづくり		課題決定 発表
活動	グループワーク「チームビルディング」「問題解決をすすめる問いかけ」		
観点	社会課題に対する関心・意欲・態度 コミュニケーション能力	問題解決力 深い教養	
自己評価	社会課題に対する関心・意欲・態度	コミュニケーション能力	
	A・B(普通) C・D	A・B(普通) C・D	
	(上の <input type="text"/> の付いた観点について自己評価し、ABCDの1つを で囲む)		

チームを作るう

team: a group of people who have been chosen **to work together to do a particular job**
group: several people (or things) that are all together in the same place (LASD)
 参考: チーム: ある目的のために活動を同じくする人々の集まり
 グループ: 共通の目的を持つ人々の集団 (明鏡国語辞典)

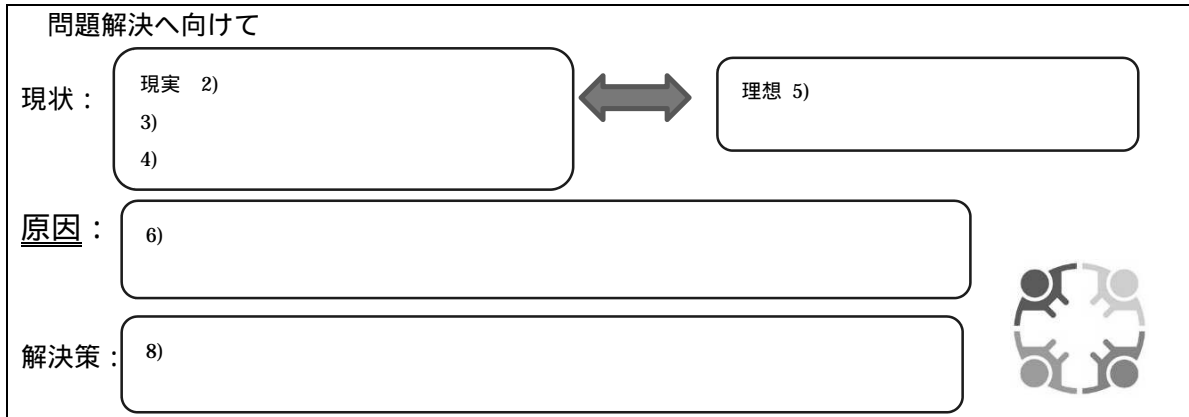
チーム名【 メンバー()()() ()()() 私たちが一緒に取り組む共通の目的(課題、問題、テーマ)は... 	
1) <input style="width: 90%;" type="text"/>	



<p>1) テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の地下水 ・地域の豪雨災害 ・地域の水ビジネス <p style="text-align: right;">など</p>	<p>2) 問題①: 選んだテーマにおいてどんな問題が起きているか、あるいはこれから起こりそうか(根拠となる最近の情報源も示す)</p>	<p>3) 問題②: 困っている・困りそう・もっとよくなりたいた人は具体的に誰か?(自分を含んでいたほうが考えやすい。根拠となる最近の情報源も示す)</p>	<p>4) 問題③: 困っている・困りそう・もっとよくなりたいた人の現在の状態とはどのようなものか?</p>
---	--	--	--

<p>5) 問題④: 困っている・困りそう・もっとよくなりたいた人の理想の状態とはどのようなものか?</p>	<p>6) 原因: 困っている・困りそう・もっとよくなりたいた人の理想と現状の差を生んでいる原因は何か?</p>	<p>7) 課題: 課題を「主語 + 述語の疑問文」で表現するとどうなるだろう?</p>	<p>8) 仮説: 課題を解決するために自分には何ができるだろうか?</p>
--	--	--	--

フローチャートを利用してまとめよう



課題を「主語 + 述語の疑問文」ではっきりさせよう 発表して HR でシェアします



7)

本日の振り返り

	Good job Members 🍀

HRNo. () 氏名 ()

GWI 授業案(8) 6/10(金)、16(木)「課題策定と計画策定」

本時の目標：チームで目的を共有し、専門家へのセッションシートを完成させる

本時のテーマ：コミュニケーション能力、問題解決力、社会課題に対する関心
理想と現状、原因・課題

観 点：リーダーシップを発揮してチームでの活動が進められているか？

場 所：図書室・地学室

準備物：white board, marker, tablet (Team), Reflection Sheet (students)

時間	活動	形態
5分	(1) 本時の目標説明と前回の振り返り	全体
(2)(3) で25分	(2) 前回授業までに考えた現状と理想、原因、(課題、仮説) について再度チームで話し合う。 前回までに挙げた現状と理想、原因、(課題、仮説) について、以下のような視点で再考する。 「どんなことが起こっているのか」 事実か？ 「困っている人」 彼らは本当に困っていると感じているのか？ 「困っている人の現状」 いつ？どこに住む、誰が、どのように困るのか？ 「困っている人たちの理想の状態」 現状と理想はちゃんとつながりあるものか？ 「現状と理想の差を生む原因」 意味が広すぎるものになっていないか？具体性に欠けていないか？ (3) 各チーム、タブレット端末から Classi に入り、エクセルの表に打ち込む。 打ち込む内容 1) テーマ 2) ~ 5) 問題 ~ 6) 原因 7) 課題 8) 仮説 9) 質問事項 10) 誰に話を聞くか？ (A , B , C で記入) A NPO法人ウォーターエイドジャパン B 独立行政法人国際協力機構 JICA C 栗田工業株式会社 17日(金) / 東レ株式会社 23日(木) 上記が終わったチームは、11月ポスターセッションまでの計画を立てる。	グループ グループ
15分	(4) クラス内で情報共有 各チーム代表者による発表	個人
5分	(5) Reflection Sheet の記入 Reflection(本日の振り返り)と Good Job Members	



GW Reflection Sheet

# 8	10 th June (FRI) and 16 th June (THU), 2016	
Today's Goal	To complete the Session Sheet	
Activity	Group work	
View points	社会課題に対する関心・意欲・態度 コミュニケーション能力	問題解決力 深い教養
Self evaluation	社会課題に対する関心・意欲・態度	コミュニケーション能力
	A ・ B (普通) C ・ D	A ・ B (普通) C ・ D
	(上の <input type="text"/> の付いた観点について自己評価し、ABCD の1つを で囲む)	

Complete the Session Sheet

タブレットからクラッシーにログインし、エクセルのシートに直接意見をまとめていきましょう。

1)テーマ	2)問題①	3)問題②	4)問題③	5)問題④	6)原因	7)課題	8)仮説	9)質問事項	10)誰に？
Topic	どんなことが起こっているか、起こりうるか	Who do you want to make happy? 困っている人	Present situation 困っている人の現状	Ideal situation 困っている人たちの理想の状況	Causes 現状と理想の差を生む原因	Theme	Solution (Hypothesis)		

【Note】有識者による課題策定指導が翌週 6月17日(金) 6月23日(木)に行われます。それまでにチームの課題設定までのフローをまとめ、質問したいことも明確にしておきましょう。

- A NPO 法人ウォーターエイドジャパン
- B 独立行政法人国際協力機構 JICA
- C 栗田工業株式会社 17日 / 東レ株式会社 23日

Make a plan : 『何を』『いつまでに』『どのように』やるのか

『何を』: 現状について(人)(現場)や実験について(方法、準備)もっと詳しく調べる、フィールドワークのまとめetc....

『いつまでに』: 現状分析は来週まで、実験は期末テスト中、アポ取りは専門家のお話を聞いてから2~3日後まで、夏休み午前中授業の日に全員集まって資料集め、8月30日までにレポートにまとめる、10月の修学旅行で調査をして帰国後次の授業までにまとめるetc....

『どのように』: 会社、市役所の担当者に話を聞く、e-mailで現地の大学の先生や専門家に質問を送って直接回答をもらうetc....

裏面: 11月のポスターセッションまでにやることの計画を立てよう

Reflection

	Good job Members 🍀

HRNo. () 氏名 ()

2 外国語教育等に関する取組

(1) 英語によるポスター制作とポスターセッションに向けた指導方法

ア 1年次LWIの流れ

- (ア) 論理的な表現方法を日本語で正しく習得させる。
各チームで取り上げた国内の水課題について「探究の目的(背景・課題・解決策)・方法・結果・考察・結論」といったプロセスで課題研究
日本語レジュメ、日本語プレゼン、日本語ポスターの作成
日本語によるポスターセッションの練習と発表(クラス代表の決定)
「三北ウォーターフォーラム」にてクラス代表が日本語でポスターセッション実施
- (イ) 英語による発表へ向けて、資料作成させる。
英語プレゼン、英語ポスター、英語による発表原稿の作成
英語によるポスターセッションの練習と発表(クラス代表の決定)
「SGH事業報告会」にてクラス代表が英語によるポスターセッション実施

イ 2年次GWIの流れ

- (ア) 年度当初より課題研究のプロセスに英語で取り組ませる。
英語による個人設定課題レポート作成
各チームで取り上げた世界の水課題について「探究の目的(背景・課題・解決策)・方法・結果・考察・結論」といったプロセスで課題研究
英語レジュメ、英語プレゼン、英語ポスター、英語による発表原稿の作成
英語によるポスターセッションの練習と発表(クラス代表の再決定)
「三北ウォーターフォーラム」にてクラス代表が英語でポスターセッション実施
- (イ) 英語ポスターを修正させ、発表時の質疑応答にも英語で対応できるよう練習させる。
英語ポスターと英語レジュメの修正
英語によるポスターセッションの練習と発表(クラス代表の再決定)
「SGH事業報告会」にてクラス代表が英語によるポスターセッション実施

ウ 成果と課題

- (ア) 成果
1、2年生ともすべての生徒が英語によるレポートライティング、エッセイライティング、プレゼンテーション、ポスターセッションを実施することで英語による発信能力を効果的に身につける手立てになっている。
- (イ) 課題
英語を課題研究のプロセスにどのタイミングで取り入れていくか、英語の授業にどのように絡めていくかは今後も課題である。

(2) 「英語表現」「コミュニケーション英語」での指導の流れ

ア 1年次「英語表現」とSGHとの連携

- (ア) エッセイライティングの練習を開始(従来は英語表現で実施)
- (イ) プレゼンテーションの手法、ポスター作成の手法、英文レポートの書き方を指導

イ 2年次「コミュニケーション英語」とSGHとの連携

- 本来は「英語表現」で実施したいが単位数の関係で「コミュニケーション英語」で実施
- (ア) 英文レジュメの書き方(Abstract, Introduction, Method, Result, Discussion, Conclusion, Reference)、効果的なポスター作成方法、プレゼンテーションの方法を指導
- (イ) GWIにおける課題研究の内容を個人でまとめさせ、スピーキングテストを実施

(3) 実用英語技能検定試験(英検)2級全員受検

- ア 卒業までに全員が英検2級を受検することとした。
- イ 昨年度2級以上の合格者31人(年間) 今年度2級以上の合格者125人(年間)

< 参考 > S G Hと英語授業のリンク例 :

Second Term For 1st Graders

Lesson	Theme	Content/Skills
1	Imagining a situation	Target Question (Describing) Imagine you have 100,000,000 yen. However, you have only one week to use it. What is one thing that you would do? Give two reasons
2	Explaining advantages and disadvantages (Content)	
3	Explaining advantages and disadvantages (Essay)	Target Question (Explaining) What are the possible advantages and disadvantages for Japan in hosting the Tokyo Olympics in 2020? Give your reasons.
Mid-Term Exam <i>Describing type question</i>		
4	Poster making (LWI)	
5	Comparing options (Content)	
6	Speaking test	
7	Speaking test	
Term-End Exam <i>Explaining type question</i>		
8	Comparing options (Essay)	Target Question (Opinion + reason) In your opinion, should the government have rules for how Pokémon Go is played? Give reasons and examples.
9	Report writing (LWI)	Describing + Explaining + Opinion/reason

Second Term For 2nd Graders

Lesson preparation

Lesson	What you have to DO BEFORE CLASS	What we are doing in class
1	<ul style="list-style-type: none"> Nothing 	<ul style="list-style-type: none"> You will learn how to write a resume and make a poster.
2	<ul style="list-style-type: none"> Come to class with a draft of your script for GWI poster presentation 	<ul style="list-style-type: none"> You will finish your script for GWI poster presentation. The teachers will check and comment.
3	<ul style="list-style-type: none"> Memorize and practice your GWI presentation Bring your poster 	<ul style="list-style-type: none"> You will present to your teachers (not to class) The teachers will check and comment.
4	<ul style="list-style-type: none"> Bring your resume, poster and script for poster presentation 	<ul style="list-style-type: none"> You will improve on your resume, poster and script. The teachers will check and comment.
5	<ul style="list-style-type: none"> Memorize and practice your new GWI poster presentation 	<ul style="list-style-type: none"> You will present to your teachers (not to class). The teachers will give comments to every group.

These are work that you are to do in your GWI classes. They are not special preparation. Come to TT to continue with your GWI work, and to get comments and help.

3 全教科における授業改善

評価方法や指導プログラムにSGH課題研究の成果や内容を活用した授業実践

(1) 国語科

1 担当者	教諭 森田久美子
2 対象	1年生 13HR 生徒 41人
3 科目・単元	国語総合・評論一 『水の東西』
4 授業で活用したSGH課題研究の成果や内容	<p>・グループワークにおいて、生徒が自由に意見を出せるよう、付箋紙に書き込む方法を使った。また、グループで討議した結果を発表し、他グループから質問をもらうという、LWIのグループ研究のやり方を使った。</p> <p>・LWIで研究している水に関する知識を、評論の内容理解に役立てた。</p>
5 具体的な活用方法(授業や単元の流れから)	<p>導入...現在研究している水に関する知識を、他グループのメンバーに発表し、水問題のいろいろを認識する。</p> <p>展開...本文の内容を読み取る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 個人作業で読解し、文章の構成を表にする。 2 自分のまとめたものを、グループで出し合い、読みを確実にする。 3 「水」の認識の東西差について、グループで話し合う(その際、付箋紙を使って、意見をまとめる) 4 グループ毎に、「水に対する認識」について発表し、質疑応答も行う。 <p>振り返り...文章を読解できたか、自分の意見を言えたかについて、振り返りシートで確認。相互評価をする。</p>
6 生徒のあらわれ(SGHで育成したい生徒の資質能力と関連して)	<p>課題解決力...グループ学習を行うことにより、自分の読解の正しい点、誤っている点を確認するとともに、他の生徒の意見を聞いたり、まとめ方を見ることで、読解が深まった。</p> <p>コミュニケーション能力...率直に話し合うことで議論が深まり、より説得力のある話し方、相手の意見を引き出す聞き方について、考えることができた。</p> <p>社会的教養...水についての東西認識差について、理解することができた。</p>
7 授業者感想	<p>LWIでグループ学習を行っているため、グループでの討議がスムーズにできてよかった。</p> <p>今後も取り入れると共に、討議の質をあげられるよう努力したい。</p>

(2) 地歴公民 科

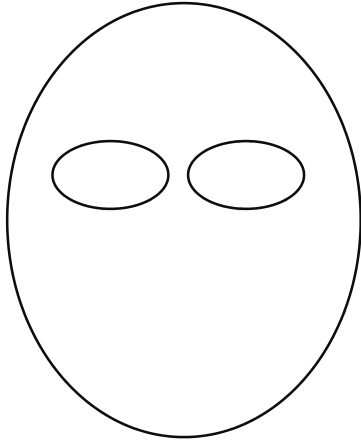
1 担当者	教諭 今田 英史
2 対象	1年生 15~17HR 生徒 124人
3 科目・単元	現代社会 地球環境問題
4 授業で活用したSGH課題研究の成果や内容	<p>Q水問題とは何か？</p> <p>水問題の写真を見て、どのような水問題があるのか思いついたことを付箋紙に書きながらまとめていくKJ法を活用する。また、1つの水問題から派生する事柄をチャート形式にホワイトボードに書き出す。</p> <p>その中から各グループで1つの水問題を絞り、原因・影響・解決方法を話し合い、グループごとに発表する。</p> <p>他のグループの発表を聞いて足りないものを付け加える。</p> <p>世界の水問題と日本の水問題を分類分けする。</p>
5 具体的な活用方法（授業や単元の流れから）	<p>・1～8時間の中で水に関するエッセイや新聞記事を提示して、水の知識を深めたり、世界の水問題を考えて、水問題を深める。</p> <p>水の日・ライバル・水の循環・海水の淡水化の方法</p> <p>水不足問題「世界の水が足りない」</p> <p>地球上の水・7億人の「水ストレス」・「断流」・ミネラルウォーター</p> <p>Q水ストレスの原因は何か？ Q水ストレスをなくすにはどうすればよいか？</p> <p>「世界（メコン川水系）の水争い」・日本の水利権</p> <p>Q世界の水争いをなくすためにはどうすればよいか？</p> <p>「仮想水（ヴァーチャルウォーター）」（フードマイレージ）</p> <p>Qなぜ仮想水という概念が出てきたのか？ Q水の偏在性をなくすためにはどうすればよいか？</p> <p>民族紛争・サヘルの砂漠化テロを生む</p> <p>水ビジネス・身近な国際協力 - テーブル・フォー・ツー</p> <p>Q私たちのできること、私たちの国際貢献とはどのようなものがあるか？</p> <p>自分の水問題を考える。 - JICA国際協力高校生エッセイコンテストへ応募（夏休みの課題）</p> <p>・小論文の試験</p>
6 生徒のあらわれ（SGHで育成したい生徒の資質能力と関連して）	<p>（コミュニケーション能力）</p> <p>・様々な水問題を通して、自分の考えなかったことを知り、相手の意見を尊重しながら、自分なりの意見・考え方を相手に伝え、グループ内で共有し、グループ内の意見をまとめ、みんなの前で発表をしていくことができた。</p> <p>（課題解決力）</p> <p>・様々な水問題を知りそれぞれの要因・影響・解決方法を探り、自分たちのできる事を話し合い、考えることができた。</p> <p>（社会的教養）</p> <p>・水に関する知識を深める。水に関して起こっている世界のできごとを知る。自分のことに置き換えたり、自分がその立場になっていることを創造することができた。</p>
7 授業者感想	<p>・相手の話を聴き、様々な意見をまとめ、自分なりの考え方のまとめ方を知り、論理的に発表することができるように近づいた。グループの中でそれぞれの役割分担をすることができるようになった。</p>

(3) 理科

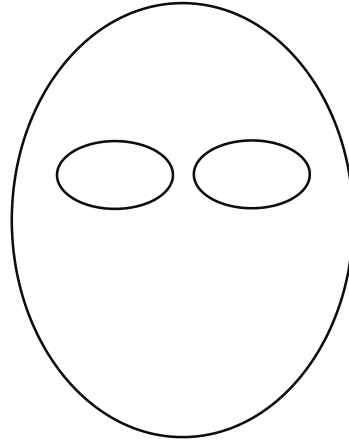
1 担当者	教諭 小林設郎
2 対象	1年生 11HR 生徒 43人
3 科目・単元	生物基礎 第3編 生物の体内環境の維持 探究「交感神経のはたらきを調べる」
4 授業で活用したSGH課題研究の成果や内容	<p>生徒の2人組を作らせ、グループ毎に相談の上、予想される現象を添付のプリントに記入させる。生命現象(交感神経)が活性化する条件・活性化することの生物学的意義・活性化させる方法・活性化したことを確かめる方法の考案、を順次各グループで考えさせて、発表させる。</p> <p>実際に実験をおこない、その結果をグループ内外で公開して、その結果をグループで考察させて発表し合う。</p> <p>これらの活動を通して学習すべき内容をグループ内での考察と発表を通して習得させる。</p>
5 具体的な活用方法(授業や単元の流れから)	<p>生徒の2人組を作らせ、交感神経が働く状態と交感神経が働く状態を予想させ、その時の顔色、瞳孔の大きさ、息遣いなどの様子を互いに相談しながら絵に描かせる。</p> <p>交感神経が活性化することが、どのような生物学的意義を持つかを考えさせ、グループ毎に発表させる。</p> <p>交感神経が活性化する方法を、その活性化したことを確かめる方法を、グループ毎に考えさせて発表させる。</p> <p>実際に生徒から提案された内容を元に、運動をすることで交感神経が活性化すること、また、交感神経が活性化すると脈拍が増加することを説明し生徒にスクワット30回行って、その前後での脈拍の変化を観察することを教員が提案する。</p> <p>スクワットの前・直後・5分後に15秒間3回の脈拍計測を行わせ、その平均を算出させ、生徒の記録データを公表させた後、その変化の傾向とそうなった理由を各グループで考察させて、発表させる。</p>
6 生徒のあらわれ(SGHで育成したい生徒の資質能力と関連して)	<p>生徒は2人組になることで、意見を言ったりそれを聞くという主体的活動を続けた。また、自グループでの意見を発表したり、他グループの意見を聞くことで、幅広い知識や考え方を共有することができた。その結果、学習活動に大きな達成感を得ることができた。この活動を通して、仲間と議論を通じて一緒に学習ことの重要性和主体的に学ぶことの重要性についても学んだ。</p>
7 授業者感想	<p>様々な疑問やアイデアの創出を通じて、集中を維持した授業を展開することができた。また、教科書にある学習内容が自分たち自身の体で起こっていることを体験的に学べたことで、充実した授業となったと思う。また、このような授業を介されることで教員と生徒の信頼関係も深まると思われる。</p>

(参考：授業時プリント) 本時の目標：自律神経の働きについて知る

交感神経の活性



副交感神経の活性



考察1 交感神経が働くときとは？

副交感神経が働くときとは？

生物学的意義は？

考察2 どうしたら交感神経が活発化するか？ (_____ 以外にのなにか)

考察3 交感神経が活性化したことを確かめるほうほうは？ (_____ 以外)
調べてくる。

実験：前：() () () { _____ } 直後 () () () { _____ }

5分後 () () () { _____ }

振り返り：交感神経の働き：

副交感神経の働き：

自分が思ったこと：

(4) 数学科

1 担当者	教諭 作本 瑞葉
2 対象	2年生 25HR 生徒 40人
3 科目・単元	数学B
4 授業で活用したSGH課題研究の成果や内容	予習を前提とする演習の授業で、全ての問題で、一問につき2人の生徒をあらかじめ指名しておき、担当生徒に板書と解説を行わせる。
5 具体的な活用方法(授業や単元の流れから)	(導入): 授業の始めに、問題を担当する生徒が、自身の解いてきた解答を板書しておく。 一問につき担当生徒が2人いるので、別解があればそれも書き出す。 (展開): 生徒自身が問題の解き方についてプレゼンをする。 (振り返り): ・プレゼンを聞いている側の生徒が、その問に関する疑問点を解説する生徒に問う。 ・教員による補足説明、基本事項の確認、別解の提示。 ・教員による生徒全体、または解説する生徒へ発問する。 例「今回の問題に、もし という条件が付け加えられたら、どのように解けばよいか、隣の席の人と話し合ってみよう。」
6 生徒のあらわれ(SGHで育成したい生徒の資質能力と関連して)	(コミュニケーション能力) 解説する側の生徒は、理由を補って説明する能力が向上し、2人が連携してプレゼンを行うため、協調性も養われた。プレゼンが始まる度に、教員が聞く姿勢についてひと言触れる時間ができたため、生徒は以前より授業をしっかりと聞くようになった。 (課題解決力) 1人の教員が解法を提示するよりも、多様な答え方や考え方を共有することができた。
7 授業者感想	・生徒同士で、わからないことをわからないと言える雰囲気生まれたことがよかった。 ・生徒の板書は見にくいときがあるので、板書中のアドバイスや補足説明を細かに行う必要がある。

(5) 英語科

1 担当者	教諭 上野 朋子																												
2 対象	2年生 生徒 291人																												
3 科目・単元	コミュニケーション英語 Lesson 3 Norman Rockwell																												
4 授業で活用したSGH課題研究の成果や内容	<p>・スピーキングテスト「絵や写真を見せながら、その作品についての説明と自分がどう感じているか（作家について、好きな理由等）を、1分程度で話す。」をループリックを活用して行った。</p>																												
5 具体的な活用方法（授業や単元の流れから）	<p>・導入：デモンストレーション、評価方法提示 ・展開：ペアで練習・アドバイス、クラス発表（相互評価） ・振り返り：自己評価</p> <p><ループリックによる評価：12点満点></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>点</th> <th>内容</th> <th>点</th> <th>発表態度</th> <th>点</th> <th>発表時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 説明と自分の考えがあり、説得力のある内容または興味深い内容。 導入とまとめがある。 適切な文法や単語が使われており、理解しやすい。 </td> <td>3</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> アイコンタクトあり。 発音がはっきりしており、理解しやすい。 </td> <td>3</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 適切な間があり、1分を有効に使っている。 </td> </tr> <tr> <td>4</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 説明と自分の考えがある。 導入とまとめがある。 文法や単語の間違えは少しあるが、理解できる。 </td> <td>2</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> アイコンタクトあり。 発音の間違えは少しあるが、理解できる。 </td> <td>2</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 多少の間がある。 </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 説明または自分の考えがない。 導入またはまとめがない。 文法や単語の間違えのため、理解しにくい。 </td> <td>1</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> アイコンタクトがなく、原稿に頼っている。 声が小さく聞こえない、または、発音に間違いがあったりはっきりしていないため、理解しにくい。 </td> <td>1</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 不自然な間がある。 </td> </tr> </tbody> </table>					点	内容	点	発表態度	点	発表時間	6	<ul style="list-style-type: none"> 説明と自分の考えがあり、説得力のある内容または興味深い内容。 導入とまとめがある。 適切な文法や単語が使われており、理解しやすい。 	3	<ul style="list-style-type: none"> アイコンタクトあり。 発音がはっきりしており、理解しやすい。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 適切な間があり、1分を有効に使っている。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 説明と自分の考えがある。 導入とまとめがある。 文法や単語の間違えは少しあるが、理解できる。 	2	<ul style="list-style-type: none"> アイコンタクトあり。 発音の間違えは少しあるが、理解できる。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 多少の間がある。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 説明または自分の考えがない。 導入またはまとめがない。 文法や単語の間違えのため、理解しにくい。 	1	<ul style="list-style-type: none"> アイコンタクトがなく、原稿に頼っている。 声が小さく聞こえない、または、発音に間違いがあったりはっきりしていないため、理解しにくい。 	1	<ul style="list-style-type: none"> 不自然な間がある。
点	内容	点	発表態度	点	発表時間																								
6	<ul style="list-style-type: none"> 説明と自分の考えがあり、説得力のある内容または興味深い内容。 導入とまとめがある。 適切な文法や単語が使われており、理解しやすい。 	3	<ul style="list-style-type: none"> アイコンタクトあり。 発音がはっきりしており、理解しやすい。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 適切な間があり、1分を有効に使っている。 																								
4	<ul style="list-style-type: none"> 説明と自分の考えがある。 導入とまとめがある。 文法や単語の間違えは少しあるが、理解できる。 	2	<ul style="list-style-type: none"> アイコンタクトあり。 発音の間違えは少しあるが、理解できる。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 多少の間がある。 																								
2	<ul style="list-style-type: none"> 説明または自分の考えがない。 導入またはまとめがない。 文法や単語の間違えのため、理解しにくい。 	1	<ul style="list-style-type: none"> アイコンタクトがなく、原稿に頼っている。 声が小さく聞こえない、または、発音に間違いがあったりはっきりしていないため、理解しにくい。 	1	<ul style="list-style-type: none"> 不自然な間がある。 																								
6 生徒のあらわれ（SGHで育成したい生徒の資質能力と関連して）	<p>・（コミュニケーション能力）英語での原稿を作成する際は、聞き手に伝わりやすい表現を使うこと、発表する際は、聞き手を意識し、アイコンタクトをしながら、理解しやすいスピードで発表することを心掛けることができた。</p> <p>・（問題解決力）紹介したい絵画や写真を用意し、学んだ語彙や文法や自分の言葉を使って、作品について、まとめ、発表することができた。</p>																												
7 授業者感想	<p>・事前に評価する点を示すことで、発表者が工夫したり、注意したりする点が明確になる。文の構成や聞き手へのアイコンタクトやわかりやすさ等、発表者の工夫が見られた。</p> <p>・原稿を一度見てしまうと、そのまま原稿を読んでしまう場面も見られた。練習時間を十分とり、工夫したり、アドバイスする場면을複数行ってもよかったと思う。</p>																												

4 国内外の大学・企業・国際機関等との連携

(1) 教員支援

機関・団体名	日程	職名・氏名	内容
常葉大学 大学院	6/15・6/22	初等教育高度実践研究科 久米昭洋准教授	ファシリテーションやコーチング技術を生かした授業の進め方に関する講義
関西学院大学	7/6	総合政策学部 客野尚志教授	課題研究指導に関する講義 (CiNiを利用したデータ検索、統計処理等)
立教大学	2/2	グローバル教育センター 松本茂教授	S G Hの探究学習が目指す学校教育
静岡大学 教職大学院	年間随時	院生 福元英美氏 (県立清水西高教諭)	学校設定教科授業観察及び振返りの支援

(2) 1年生課題研究支援

機関・団体名	日程	職名等	内容
立教大学	6/1	経営学部生 2人	課題研究のテーマ決定に向けたアドバイス
	6/8	〃	〃
	11/30	〃	英語版ポスター作成支援（デザイン、表現など）
	1/18	〃	英語版ポスターセッション練習補助
日本大学	1/18	国際関係学部生 5人	英語版ポスターセッション練習補助
東京大学	8/4	生産技術研究所芳村准教授	水の同位体等についての講義（希望者120人対象）
アサヒグループホールディングス	4/11	CSR部門社員 1人	水問題に関する講義（水を生かしたビジネス）
	6/22	CSR部門社員 2人	チームの課題設定への助言、研究資料紹介
	9/28	CSR部門社員 2人	ポスター作成前支援
沼津河川国道事務所	4/11	副所長他 7人	水問題に関する講義（豪雨対策）
	6/22	副所長他 7人	チームの課題設定への助言、研究資料紹介
	9/28	副所長他 7人	ポスター作成前支援
八千代エンジニアリング	4/11	社員 4人	水問題に関する講義（富士山の地下水）
	6/22	社員 6人	チームの課題設定への助言、研究資料紹介
	9/28	社員 6人	ポスター作成前支援
東レ株式会社	3/13	理事	次年度G W I 課題研究テーマ発見補助
J I C A	3/13	インハウスコンサルタント	次年度G W I 課題研究テーマ発見補助
公益財団法人 河川財団	4/20	子どもの水辺サポーター	課題研究のテーマ発見補助（The Blue Traveler）
	4/27	トセンター所員 1人	課題研究のテーマ発見補助（A Grave Mistake）
NPO法人ウォーターエイドジャパン	4/13	事務局長	課題研究のテーマ発見補助（My Water, Our Water）
	3/13		次年度G W I 課題研究テーマ発見補助
NPO法人アグスイア	毎週	理事長	授業支援
NPO法人グラウンドワーク三島	8月	事務局長	生徒フィールドワーク支援

(3) 2年生課題研究支援

機関・団体名	日程	職名等	内容
東京外国語大学	10/28・11/4	留学生2人 (各回1人)	英語版ポスター作成支援
	1/12・1/13		英語版ポスターセッション練習補助
栗田工業株式会社	6/17	新事業推進部1人	課題研究計画策定支援(課題設定補助、支援等)
	9/15		ポスター作成支援(発表内容の整理等)
東レ株式会社	6/23	環境保安部1人	課題研究計画策定支援(課題設定補助、支援等)
	9/16		ポスター作成支援(発表内容の整理等)
JICA	6/17・6/23	インハウスコンサルタント	課題研究計画策定支援(課題設定補助、支援等)
	10/13・10/14		ポスター作成支援(発表内容の整理等)
NPO法人ウォーター エイドジャパン	6/17・6/23	事務局長、事務局員	課題研究計画策定支援(課題設定補助、支援等)
	9/15・9/16		ポスター作成支援(発表内容の整理等)

(4) 海外研修での連携

ア ベトナム研修(平成28年8月17日～21日)

機関・団体名	職名等	内容
水資源大学	ドン教授	ベトナムの水問題に関する講義
在ベトナム日本国大使館	二等書記官 他	現地高校との連絡調整、大使館表敬訪問
JICA	日本工営株式会社	ハロン湾現地調査支援

イ シンガポール研修(平成28年10月2日～7日)

機関・団体名	職名等	内容
シンガポール大学	上級研究員	シンガポールの水問題に関する講義
シンガポール科学技術庁(A*STAR)	研究員	シンガポールの科学政策についての講義
早稲田バイオサイエンスシンガポール研究所(WABIOS)	研究員 北口哲也博士	研究内容(人間生態の病原についてのマーカー)についての講義
日本水フォーラム	ディレクター	シンガポール大学講師紹介
国立研究開発法人科学技術振興機構シンガポール事務所(JST)	所長	シンガポール科学技術庁の講師紹介 バイオポリスセミナールーム調整
静岡県東南アジア事務所	副所長	A*STAR、JSTでの通訳との調整

5 海外研修

(1) シンガポール修学旅行

ア 仮説 シンガポール修学旅行の事前研修と、現地での水関連の施設訪問や水問題についての講義聴講、現地高校生や大学生との交流等のフィールドワークを通して、GWIの学習意欲を高めると同時に、社会課題への興味関心・国際的視野からの課題解決能力を高めることができる。

イ 日程 平成28年10月2日(日)～ 10月6日(木) (第1団)
平成28年10月3日(月)～ 10月7日(金) (第2団)

ウ 渡航先 シンガポール

エ 参加者 2年生全員290人 引率教員16人

オ 事前研修

(ア) 1学期末～夏休み

- ・ B & S プログラム(シンガポールの大学生との交流)用質問準備・・GWIで研究しているテーマに関する英語の質問準備。英語科教員による添削指導。
- ・シンガポールに関するポスター作成・・チームでテーマを決定(歴史、教育、法律、宗教、風習、食事等)。個人でレポート作成。

(イ) 夏休み～2学期

- ・レポートの内容を班、クラスで共有。ポスターを作成し掲示。

カ S G H 関連研修

(ア) ニューウォーター・ビジター・センター(NEWater Visitor Centre)訪問

日程 10月4日 午後

参加者 文系3クラス 112人

内容 英語ガイドの案内で見学。シンガポールの浄水過程や水の使用方法、NEWaterという下水を真水化するシステムについて学習。

(イ) シンガポール国立大学(National University of Singapore)訪問

日程 平成28年10月4日 午前中

参加者 文系特別進学クラス40人

内容 Dr.Cecilia Tortajadaによる水課題に関する講義を受講

(ウ) バイオポリス(Biopolis)訪問

日程 10月4日 午前中

参加者 理系特別進学クラス及び理系2クラス 124人

内容 シンガポールにおけるバイオメディカル分野の研究開発拠点。Sarah Changil氏よりA S T A R(シンガポール科学技術イノベーション庁)に関する英語での講演、早稲田大学バイオサイエンスシンガポール研究所 北口哲也博士による講義を視聴。シンガポールのグローバルな科学政策や、学問・研究において大切なことを再確認する貴重な機会となった。

(E) リバーバレーハイスクール(River Valley High School)訪問

日程 10月4日 午前中

参加者 海外研修班14人

内容 本校生徒14名が4チームに分かれ、英語で水問題に関するプレゼンテーションを実施。リバーバレーハイスクールからも2チームが環境問題に関するプレゼンを

実施。世界大会で高い評価を得た相手校の発表は大変良い刺激となった。相手校生徒とペアになり英語による説明をしながら施設見学をし、交流・意見交換。教員間でも探究学習の指導体制等についての意見交換を実施。

(オ) B & S プログラム

日 程 10月4日 文系3クラス午前中、その他の生徒午後

参加者 2年生全員290人

内 容 シンガポールの大学生と本校生徒が少人数グループに分かれて英語で交流及び市内観光をした。事前準備としてGWIでの研究テーマに関する質問を用意し当日大学生から意見を聞き、帰国後の研究につなげた。

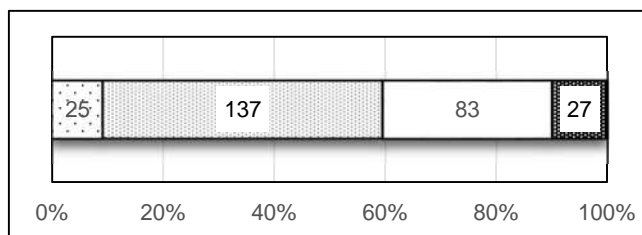
キ 評価

生徒アンケートによれば、事前研修も含めたシンガポール修学旅行により、「社会問題への興味・関心を持つようになった」と答えた生徒は60%、「水問題と国際的・社会的・文化的課題との関係に気づいた」と答えた生徒は67%であった。フィールドワークを実施しにくい学校設定科目GWIを展開する上で、水問題を国際的視野から捉える貴重な機会になっていることがわかるが、数値としては8割を目指し改善を進めたい。

また「GWIへの取組意欲の向上」については、肯定的意見は51%に留まっている。本年度はISによるテロ発生のためマレーシア訪問(シンガポールへのパイプライン見学等)を中止した。これらも含め、GWIでの探究学習深化に向けた修学旅行プログラムの更なる工夫が必要である。

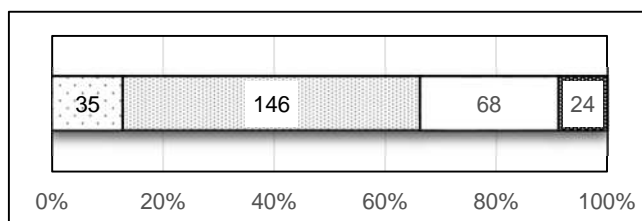
<参考> ・この研修を通して、社会問題に対して興味・関心を持つようになった。

- 1：とてもそう思う 25人
- 2：まあそう思う 137人
- 3：あまり思わない 83人
- 4：全く思わない 27人



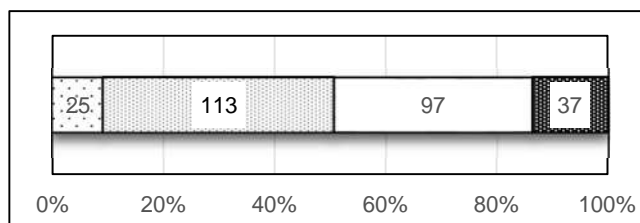
・この研修を通して、水に関する課題がその他の国際的・社会的・文化的課題と関係していることがわかった。

- 1：とてもそう思う 35人
- 2：まあそう思う 146人
- 3：あまり思わない 68人
- 4：全く思わない 24人



・今回の研修を通して、GWIへの取り組みの意欲が向上した。

- 1：とてもそう思う 25人
- 2：まあそう思う 113人
- 3：あまり思わない 97人
- 4：全く思わない 37人



(2) ベトナム海外研修

ア 仮説 ベトナムの水問題についての事前・事後研修や、現地の高校生とのプレゼンテーション・意見交換、フィールドワーク等を通じて、LWI・GWIの学習意欲を高めると同時に、社会課題への興味関心・国際的視野からの課題解決能力を向上させることができる。

イ 日程 平成28年8月17日(水) ~ 8月21日(月)

ウ 渡航先 ベトナム ハノイ

エ 参加者 生徒13人(1年生10人、2年生3人) 引率教職員3人

オ 事前準備

4月 13日(水)	生徒対象説明会
4月 19日(火)	参加申込締め切り 応募者24人(1年18人、2年6人)
4月 20日(水)	選考試験 英語面接を含む適性試験の実施
4月 21日(木)	派遣者13人決定・連絡
6月 21日(火)	保護者事前説明会

カ 研 修

(ア) Cyu Van An 高校訪問

日 程 8月18日(木) 午前

内 容 ベトナム国内に3つある国立高校の一つ。

国内有数の進学校で海外進学者も多い。

外国語教育も盛んで、英語特別クラスや数学特別クラスのレベルはかなり高い。英語の授業内で、本校生徒が4チームに分かれ事前研修で行ってきた水に関するプレゼン

を実施。Cyu Van An高校生はPreziを用いて水問題についてのプレゼンをした。プレゼン技法に優れ刺激となった。質疑応答も英語で実施し、水に関する課題を共有できた。校長先生より、短期交換留学等も含め相互交流を継続する提案をいただいた。



(イ) 在ベトナム日本国大使館訪問

日 程 8月18日(木) 午後

内 容 田中書記官から、ベトナムの諸事情や大使館での仕事等について説明があり、質疑応答にも丁寧に対応していただいた。



(ウ) 水資源大学 (University of Water Resource) 訪問
日 程 8月19日(金) 午前

内 容 水利科学分野に関係する全ての専門領域
(水理工学、灌漑工学、水文学、防災科学
等)を学部から博士教育にわたる教育課程
で網羅し、卒業生の大半は政府及び地方行
政の技師や行政官として活躍。日本の大学
とも教育研究連携をしている。日本に留学経験もあるドン先生による講義の聴講。前半は



日本の水災害、後半はベトナムの水災害や都市部と山間部の水問題の相違点について、生徒が理解できるわかりやすい英語で説明がなされた。英語での質疑応答後、大学内の見学を実施。

(I) ハロン湾フィールドワーク

日 程 8月20日(土)

内 容 1994年世界自然遺産に登録されたベトナム屈指の景勝地。近年、水上生活者による生活排水や観光客が出すゴミ等により、湾内の水質が悪化。独立行政法人国際協力機構(JICA)による水質浄化のための調査が行われている。



船上にて、JICAの長沼氏からハロン湾の水質や水上生活者の状況について説明後、水の透明度を測定する方法を教えていただき調査を行った。その後、ハロン湾近辺の水の汚染、沖の水と河川からの水流がある地点の水の違い等について詳細な説明を受けた。

キ 事前・事後研修

(ア) 時 間 毎週水曜日 午後4時30分 ~

(イ) 指導者 橋本淳司委員、川村教諭、望月海外交流アドバイザー

(ウ) 対象者 ベトナム海外研修参加者13人、シンガポールプレゼン代表生徒11人 計24人

(I) 内 容

<事前> はベトナム研修班のみの実施

4月27日	オリエンテーション
5月18日	自分が取り組みたい課題の共有
6月1日	Team Building: サイレントグループピング手法 ¹ Ground ruleについての話し合いと把握
6月8日	今後のスケジュール確認
6月15日	チームでの課題の整理: 「なにをしたいか、どういう状態になりたいか」「そのためのリソースはどこになるか」等についての質問用紙を活用
6月22日	昨年度海外研修映像視聴、 PREP-LP法 ² を活用してプレゼン準備

6月29日	中間発表
7月13日	マイナビ今井氏によるプレゼン研修
7月20日	プレゼン練習（内容指導）
7月27日	プレゼン修正・練習
8月2日	ベトナム文化講座：神田外国語大学教授による講義、 プレゼン修正
8月3・4・8・9・ 10・15・16日	プレゼン修正・練習

<事後>

9月7日	ベトナム班報告会
9月14日	シンガポール班中心のプレゼン修正
9月21日	プレゼン完成、ポスター作成開始
9月28日	ベトナム班ポスター発表練習シンガポール班プレゼン練習
10月12日	シンガポール班報告会
10月19・26日 11月2・16日	ポスターを利用して 三北ウォーターフォーラムセッション準備
12月7・14・21日	ポスター修正しグレードアップを目指す
1月11日	ポスター完成
1月18・25日 2月1日	ポスターセッション練習
2月2日	S G H報告会にてポスターセッション

- 1 サイレントグルーピング：個々に紙に興味のある課題を書き、それを元にチームを作る手法
- 2 PREP-LP法：Point（結論）Reason（理由）Example（例）Passion（情熱）Let's（誘い）Please（お願い）の順番で、自分の意見を述べる手法



ク 評価

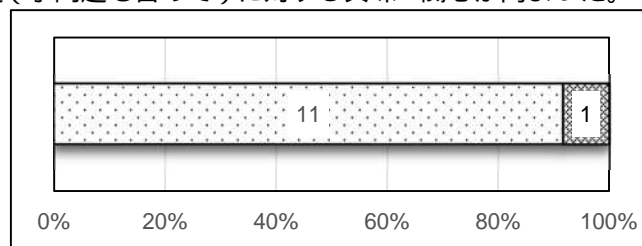
少人数(13人)による実施、30日以上 の充実した事前・事後研修(参加者24人)もあり、終了後実施したアンケートでの生徒の満足度や達成感は大変高いものだった。特に、仮説の検証として実施したアンケート(下の<参考>)では、ベトナム海外研修を通して「社会課題への興味・関心が高まった」「水課題が、国際的・社会的・文化的課題と関係していることがわかった」「LWI, GWIへの取組意欲が向上した」という問に対し、全参加者が肯定的に答えている。

自由記述では、「水害について日本とベトナムの比較ができた」「現地の人が水問題についてどのように考えているのかを(アンケート実施により)知ることができた」「ベトナムの文化と水のつながりを知ることができた」等、水問題をグローバルな視点で捉え直すことができたと答えている生徒が目立った。また、交流した高校生の英語力・プレゼン力に圧倒され、「もっと自分の英語力を上げなければ、国際社会で活躍できないという危機感を持てた」という感想や、「市場でたくましく生計を立てている人々の姿や自分の意見を堂々と発言する高校生から人としての強さを学んだ」、「水上人形劇を見学し、文化の継承という点から日本はベトナムから学ぶべきことが沢山ある」という意見もあり、水問題以外の点からも学びが多かったことがわかる。

課題としては、研究の質向上に向けて、事前研修段階から交流学校と共通テーマで研究をしたり、「初めて発展途上国に行き、町の様子を見てどうにかしなければならなかった」とや「(ハロン湾のごみを見て)少しでも水をきれいにする活動をしたかった」という意見を参考に、直接的支援活動も探してみたい。

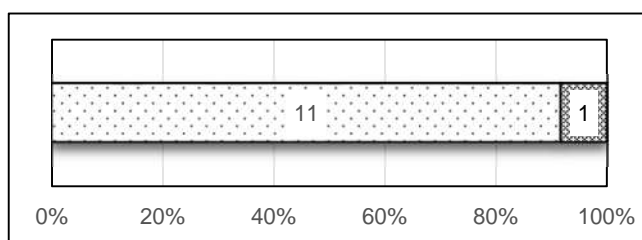
<参考> ・ベトナム海外研修を通して、社会課題(水問題も含めて)に対する興味・関心が高まった。

- 1 : とてもそう思う 11人
- 2 : まあそう思う 1人
- 3 : あまり思わない 0人
- 4 : 全く思わない 0人



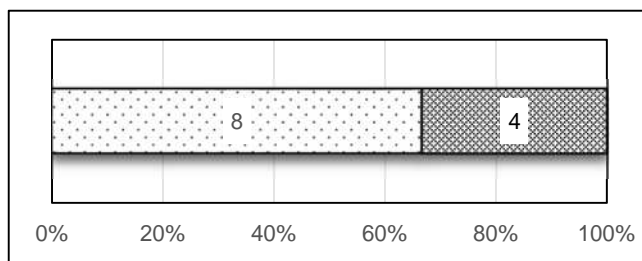
・ベトナム海外研修を通して、水に関する課題が、その他の国際的・社会的・文化的課題と関係していることがわかった。

- 1 : とてもそう思う 11人
- 2 : まあそう思う 1人
- 3 : あまり思わない 0人
- 4 : 全く思わない 0人



・ベトナム海外研修を通して、LWI, GWIへの取り組みの意欲が向上した。

- 1 : とてもそう思う 8人
- 2 : まあそう思う 4人
- 3 : あまり思わない 0人
- 4 : 全く思わない 0人



6 教育課程外の取組内容

(1) 異文化理解講座

ア 目的・概要

S G H事業の一環として、日本滞在中の留学生などの外国人、海外で活躍している日本人の専門家などが出身国・滞在国の水問題等をテーマに講演を行い、生徒の異文化理解の一助とすることを目的とする。講座は、ワークショップのかたちをとることにより、生徒の好奇心を積極的な発言と行動に発展させる双方向的な「場」の形成を期待した。今年度は、2回開催した。

イ 内容

(ア) 第1回「ベトナム」

日 時：平成28年7月29日（金）13:00～14:00

講 師：ゴ・ティ・タン・トゥエン（Ms. Ngo Thi Thanh Tuyen）

所 属：静岡県立大学大学院 国際関係学研究科（修士課程）

テーマ：ベトナムの水と文化 -ハロン湾の神話と環境-

(イ) 第2回「ウガンダ」

日 時：平成28年11月10日（木）16:30～17:30

講 師：川口博子

所 属：京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科（博士課程）

テーマ：理解の壁 -元子ども兵士と向き合うことはできるか-

ウ 評価

本講座は国際交流室が主催しているため、門戸は全校生徒に開放しているものの、参加するのは同室生徒が多数を占める。同室生徒のほとんどは、海外研修と英語ディベート活動に参加しており、積極的な発言と相手の話を理解しようとする態度が、回を追うごとに向上している。海外研修と英語ディベート活動を通じて、生徒間に信頼関係が醸成されているため、「どのような質問をしても恥ずかしくない」など、安心して参加できる環境が構築されていることも、誰もが積極的に発言する要因として挙げられる。さらに、参加生徒は、より理解を深めるための質問をするためにメモをとる習慣を身に付けた。

今年度の講師は、留学生大学院生、大学院生（博士課程）であり、対象国と講師の属性が異なるため、講座の内容も、自国文化紹介、研究対象としての異文化の理解—と講師の特性を活かした内容となった。参加生徒は、自分の知識・価値観とこれらと比較しつつ受講することで、異文化についてより深い学びを得ている。特に今年度は、フィールドワーカーである大学院生（博士課程）から「異文化を理解するとはどういうことなのか（理解できるのか）」をテーマとしたことは、生徒にとって大きな刺激となった。

(2) 外部ワークショップ等への参加及び研究発表

ア 第5回高校生国際ESDシンポジウム@東京及び第2回全国S G H校生徒成果発表会

主 催：筑波大学附属坂戸高等学校

期 日：平成28年11月10日（木）

参加校：全国のS G H校及びS G Hアソシエイト校の生徒及び教員、教育関係者

場 所：筑波大学東京キャンパス

本校参加生徒：2年生女子4人

イ ウォーターエイドジャパン・スピーカークラブ活動報告会

主 催：ウォーターエイドジャパン

期 日：平成28年11月13日（日）

参加者：環境問題に関心のある一般市民

場 所：JICA東京

本校参加生徒：2年生男子3人 女子1人

ウ 第1回関東・甲信越静地区SGH課題研究発表会

主 催：立教大学

期 日：平成28年12月17日（土）

参加校：関東・甲信越静地区SGH指定校のうち13校

場 所：立教大学池袋キャンパス

本校参加生徒：1年生男子1人 女子3人 2年生女子2人

エ 国際理解教育講座

主 催：静岡県高等学校国際教育研究会

期 日：平成28年12月26日（月）

参加校：静岡県内11校

場 所：静岡県立静岡城北高等学校

本校参加生徒：1年生男子2人 女子7人

オ ウォーターリテラシー・オープンフォーラム6

主 催：ウォーターリテラシー・オープンフォーラム実行委員会2017

期 日：平成29年3月20日（月・祝）

参加団体：東京農工大学、ウォーターエイドジャパンスピーカークラブ、CFFジャパンほか

場 所：国際基督教大学

本校参加生徒：2年生男子1人 女子3人

カ SGH甲子園

主 催：関西学院大学、大阪大学、大阪教育大学

期 日：平成29年3月19日（日）

参加校：SGH指定校、SGHアソシエイト校から延べ118校

場 所：関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス

本校参加生徒：2年生男子2人 女子5人

(3) エンパワーメントプログラム

ア 主 催 株式会社ISA

イ 日 程 平成28年8月8日（月）から8月12日（金）

ウ 参加者 本校生徒35人 沼津東高等学校生徒7人 韮山高等学校生徒19人 計61人

エ グループリーダー ハーバード大学2人、カリフォルニア大学4人、スミスカレッジ1人、
（留学生）東京大学1人、早稲田大学1人、筑波大学1人

オ ファシリテータ Darryl Wharton-Rigby（ISA職員）

カ 主旨 グローバル時代を生きる上で必要な人間力を鍛える。具体的には「自身の考えや意見をしっかりと持つ/自分に自信を持つ」「ポジティブシンキングへのマインドシフト」「多様性を

知る / 多様な文化の人々とのコラボレーション力」「自分の人生を自分で選択し、その決断に責任を持つ」「コミュニケーション力」「問題解決に向け実際に行動を起こせる」といった力を身に付けることを目的とする。

キ 主な内容

- 8月8日(月)開会式、自己紹介、グループ討議
- 8月9日(火)グループ討議、プロジェクト(世界の水問題)
- 8月10日(水)グループ討議、プロジェクト(原子力発電の是非)
- 8月11日(木)グループ討議、プロジェクト(18歳選挙権の導入)
- 8月12日(金)グループ討議、各参加生徒によるプレゼンテーション、閉会式

ク 評価

事後に実施したアンケート結果では「非常に満足」と回答した参加者が86%、その他の生徒は「満足」と回答しており、生徒にとって充実感のあるプログラムだった。また、事前に行ったアンケートと比較すると、「自分のことをポジティブ思考だと思う」と回答した生徒が44%から74%に、「自分は価値ある存在だと思う」と回答した生徒が10%から29%に増加し、自己肯定感が高まった傾向が見られた。

(4) 英語ディベート大会参加

ア 目的・概要

コミュニケーション能力、課題設定能力、発信力などを涵養することを目的とし、国際交流室に所属する1、2年生28人が、海外交流アドバイザーと英語教諭の指導の下、英語ディベートに取り組んだ。今年度は、2チームが第11回全国高校生英語ディベート大会静岡県大会に出場した。平成28年度の全国高校生英語ディベート連盟(HEnDA)による論題は、"Japanese government should adopt a social security system that provides a basic income to all Japanese citizens." (日本政府は、日本のすべての市民に、ベーシック・インカムを給付する社会保障制度を採用すべきである。是か非か)であり、生徒は英語でのディベートの技術を身に付けるとともに、ベーシック・インカム、および、公的年金、生活保護、雇用保険などの社会保障制度について議論した。

イ 活動内容

HEnDAによるアカデミック・ディベートでは、自分の主張を述べるだけでなく、根拠となるエビデンスに基づき、強固な立論を作成することから始まる。さらに、相手の主張を批判的に理解し、反論する必要がある。生徒は、書籍、新聞、インターネットなどを使って情報を収集した上で、信頼性、客観性のあるものを活用し、立論を作成した。なお、いずれの生徒も他の部活と兼務しているため、生徒自身が効率的なスケジュール管理を心がけた。

ウ 評価

議論は、英語ディベートという形式にのっとったものであったため、学年の上下を意識させないコミュニケーションの場が達成された。これは、他校チームとの対戦においても、ルールに基づいたものであるため、同様に実践された。そして、強固な立論を考案する過程で課題設定能力が養われていった。実際の英語ディベートの試合で他校と対戦する過程で、自分たちの課題設定が有効になされていたかを自ら検証することになる。この英語ディベートはジャッジの判定で勝敗が決まるため、単に流暢な英語を話すだけでなく、論理的で分かりやすい内容のスピーチを作成する訓練にもなっている。以上を繰り返し振り返り、楽しみながら経験できる場としての英語ディベートを

通して、コミュニケーション能力、課題設定能力、発信力のさらなる向上が期待できる。

(5) 海外進学・留学情報の提供と海外短期留学支援

ア 海外派遣特別事業

主 催：一般社団法人 静岡県立三島北高等学校後援会

趣 旨：本校創立百周年記念事業として開始。より多くの生徒が異文化との共生、交流をとおりて国際感覚を磨くことができるように奨学金(一人当たり10万円・上限5人)を支給する。

参加者：2年生男子(カナダ・バンクーバー 23日間)

2年生女子(オーストラリア・メルボルン 17日間)

2年生女子(カナダ・バンクーバー 16日間)

その他：参加者は帰国後、校内で図書課主催の「せせらぎ講座」で、体験談を紹介した。

イ「トビタテ! 留学JAPAN」高校生コース応募支援

第2期：2年生男子1人と女子1人が合格し、7～8月にそれぞれカナダ・バンクーバーとアメリカ・サンフランシスコの語学学校に留学した。

第3期：1年生全員に向けて広報し、応募を希望する生徒14人(男子1人、女子13人)に海外交流アドバイザーがカウンセリングを実施するとともに、留学計画書の作成に際して指導を行った。最終的に、第1次審査に全員が応募した。

ウ「留学トーク2017」

趣 旨：海外大学に進学した卒業生から、留学の意義や心構えなどについて、Q & A形式で話してもらい、生徒の夏季短期留学、海外大学への進学について考えるための参考とする。

講 師：木村愛子(オーストラリア・ウーロンゴン大学在学。平成26年度本校卒業生、国際交流室所属、夏季短期留学・英語ディベート経験者)

日 程：平成29年1月13日(金) 15:30～16:30

評 価：参加した生徒にとって、進路は自分から動く「行動力」が大切であると気付かされる機会となった。

(6) 留学生等の受け入れ

ア ヨナス・グス(ドイツ国籍・男性)

平成27年9月に来日、平成28年6月10日帰国 26HRに所属し、通常の授業を受けた。

イ アナ・クララ・ガルシア(ウルグアイ国籍・女性)

平成28年10月8日来日、11月4日帰国 17HRに所属し、通常の授業を受けた。

ウ ニューゼaland・ニュープリマス高校生来校

平成28年4月19日 三島市の姉妹都市ニュープリマス市の高校生13人と引率教員4人が来訪

エ 日独スポーツ少年団同時交流

平成28年8月4日 10代後半～30代の指導者10人が三島市訪問に合わせて来訪(部活動見学)

オ 澳門高校生訪問団来校

平成28年12月19日 Jenesys2.0の一環で、澳門の高校生27人と引率者3人が来訪

7 その他の取組

(1) 第1回SGH推進会議

ア 日 程 平成28年6月8日(水)午後2時5分から4時5分まで

イ 場 所 静岡県立三島北高等学校 会議室

ウ 出席者 推進委員9人 オブザーバー7人 学校関係6人 計22人

	氏名	職名
S G H 推 進 委 員	松本 茂	立教大学 グローバル教育センター長
	橋本 淳司	アクアスフィア代表
	伊藤 和久	NPO法人日本水フォーラム ディレクター
	鈴木まき子	元静岡県英語教育研究会会長
	松田 竜明	東レ株式会社三島工場 環境保安課長
	宮田 博司	栗田工業株式会社 新事業推進本部新事業推進部技術課
	佐野 貴明	沼津市教育委員会学校教育課 指導主事
	芹澤 直人	裾野市教育委員会学校教育課 指導主事
	横山 邦雄	長泉町教育委員会こども育成課 指導主事
オ ブ ザ ー バ ー	河田 純次	静岡県教育委員会高校教育課指導班 指導主事
	土井 弘子	〃 総合教育センター総合支援課高校班 指導主事
	久保田 眞	加藤学園暁秀中学校・高等学校 副校長
	桑野 啓	〃 S G H部長
	鈴木 雄介	伊豆半島ジオパーク推進協議会 専任研究員
	山登 絵理	〃 教育担当
	鷺坂 豪大	〃 企業・学術連携担当
学 校 関 係 者	杉山由美子	静岡県立三島北高等学校 校長
	松本 一真	〃 教頭
	稲葉 明彦	〃 事務長
	川村 陽一	〃 S G H推進室 室長
	望月 良憲	〃 海外交流アドバイザー
	福元 英美	静岡大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻

エ 提言

- ・ G W I では英語科以外の教員の負担減を考えるべき。支援に入る A L T に授業の方向性や任せる部分を明確にし、担任は生徒支援に回ると良い。
- ・ 多様なテーマを扱う中で、インターネット情報の信憑性についてきちんと指導したい。
- ・ 課題研究の手法が、すでにあるデータを利用することに留まっている。理系分野では、データを自分で得るのが当然。新たな課題設定は難しいので、現在企業や大学が持っているテーマを借りて、自分でデータを集めることが主体的な学びに繋がる。
- ・ 先を急ぎ過ぎず、生徒にポイントを教えて自主的な活動につなげていくことも重要。完成できなくても、今後の課題や調査事項を示し次年度につなげて良い。
- ・ G W I では、英語力と水問題の両方を探求しなければならない。1年で、2年次に必要な英語力を見極め、英語科としてカリキュラムを開発していくとよい。

(2) 第2回SGH推進会議

ア 日 程 平成29年2月2日(木)午後2時30分から4時まで

イ 場 所 プラサヴェルデ

ウ 出席者 推進委員10人、オブザーバー6人、学校関係5人 計21人

エ 提言等

- ・11月の三北ウォーターフォーラムの時よりも発表の質、内容、態度が向上した。この間の指導の何が有効だったかを振り返っておく必要がある。
- ・11月の発表の後、専門家の方々からのコメントをいただきチームで改善に取り組んだこと、大学生やALT達の支援をいただいたことが大きかった。
- ・アンケートは、わかりやすいと同時に生徒の変容が見えるような設問にしたい。
- ・(沼津河川事務所)次年度も協力したいが、専門外の下水道や水道については、自治体の専門部署にも支援依頼をしてはどうか。
- ・2年3学期から3年で取り組む論文では、日本と世界の水問題を学び、自分はどうしたいか、どう社会に貢献したいかという書き方ができるとよい。
- ・次年度「生徒間でのノウハウの継承」の機会を設けたいという話があった。教員間でも何をやらうまくいったか、何をやら失敗したか等を蓄積し継承してほしい。
- ・3年のレポートも上手くまとめられれば受験でも役立つ。これまでの取組をポートフォリオにまとめれば国立難関大のAO入試でも使える。進路指導でもSGHを活用したい。
- ・予算が減額されるが、メリハリと個人負担、企業の寄付等も考えてはどうか。

(3) SGH報告会

ア 日 程 平成29年2月2日(水)午前10時から午後2時20分まで

イ 場 所 プラサヴェルデ

ウ 出席者 高校教育課、運営指導委員、SGH推進委員、県内外教育関係者、保護者等 計86人

エ 内 容

- ・報告 平成28年度事業報告、平成28年度研究開発の成果報告
- ・講演 「SGHの探究学習が目指す学校教育」

立教大学グローバル教育センター長 松本 茂 氏

- ・生徒課題研究ポスターセッション(英語)

1年生・2年生代表14チーム、

ベトナム研修参加者3チーム、シンガポール研修参加者4チーム

オ 感想・意見

参加者にアンケートを実施。「28年度事業報告説明」「立教大学教授松本茂氏講演」については「大変満足」がそれぞれ63%、66%、「満足」も含めると全員から肯定的感想をいただいた。「生徒ポスターセッション」についても55%が「大変満足」、残り45%が「満足」であった。

<肯定的意見>

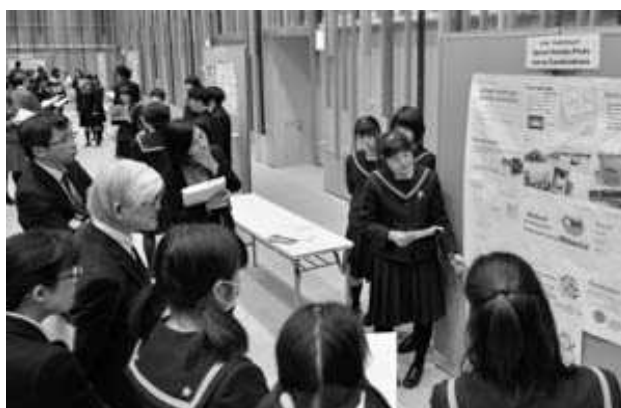
- ・事業3年目となり改善の様子が伝わった。三島北高の実践が他校で今後取り組む探究学習のよいモデルとなるだろう。
- ・11月の校内ポスターセッションから、研究内容や英語発表力が格段に向上した。シラバスが効果的だったのではないかと。
- ・昨年は2年生でも日本語が多かったが、今年は1・2年生共に全て英語で発表し、質疑応答

も英語でやっていて成長を感じた。

- ・発表態度も堂々としていて、発表の場を多く体験することで素晴らしく成長すると感じた。
- ・個々の生徒の英語力は様々だが、グローバルに対しての心の壁は感じていないようだ。
- ・テーマは水に限定されていたが、研究内容が多岐にわたり、楽しくセッションに参加できた。
- ・学校をあげてのマネジメントに感心した。生徒が実際に発表する機会の多さも印象的だった。

<改善に向けてのアドバイス>

- ・ポスターは、ぱっと見た時の情報のつかみやすさを工夫したい。
- ・最終目標が、調べたことを伝えるで終わってしまっているチームも多い。調べたことを実現するにはどうしたらよいかを考えさせたい。
- ・解決方法や提案についてのブラッシュアップを期待したい。



(4) 校内研修

ア ファシリテーション力向上講座

日 程 平成28年6月15日(水) 午後1時5分から午後3時

平成28年6月22日(水) 午前9時30分から午後3時

講 師 常葉大学大学院初等教育高度実践研究科准教授 久米昭洋 氏

参加者 1年LWI担当教員

内 容

- ・ファシリテーションやコーチングの技術を活かした授業の進め方、評価の観点に関する講義
- ・学校設定科目LWIの授業参観を通して、生徒の主体的な取組を促すための教員側の心構えや態度、授業の進め方などに対する指導及び助言



イ 校内研修「これからの生徒達に必要な学び」

日 程 平成28年 6月24日（金）午後 3時30分から午後 4時30分

講 師 静岡県総合教育センター 総合支援課高校班指導主事

参加者 全職員

内 容 「アクティブ・ラーニングはなぜ必要か」についての講義と演習（ピア・インストラクション）演習（教科別協議：アクティブ・ラーニングの視点からの授業設計）を実施。全職員が、アクティブ・ラーニングの意義と具体的指導法について学ぶことができた。

ウ 課題研究指導力向上講座

日 程 平成28年 7月 6日（水） 午後 1時30分から午後 3時

講 師 関西学院大学総合政策学部 教授 客野尚志 氏

参加者 全職員

内 容 生徒の課題研究の質を高めるためのテーマ設定方法や、論文作成の指導方法を学ぶ。



<写真で振り返るSGHの1年間>

9月8日 県政情報番組取材



9月28日 LWI：専門家の支援



10月30日 英語ディベート県大会参加



11月19日 三北ウォーターフォーラム



12月17日 立教大学でのSGH校発表会



2月2日 事業報告会



< 参考資料 >

学校番号		16	学校名		静岡県立三島北高等学校		課程等		全日制
平成28年度 教育課程表 (甲)									
教科	科目	標準時数	学年	普通科					
				1年		2年		3年	
				普通	文系	理系	文系	理系	
国語	国語総合	4	5						
	現代文B	4			2	2	3	2	
	古典B	4			3	2			
	国語総合演習	3						2	3
	古典演習	4					4		
地理歴史	世界史A	2	2						
	世界史B	4			3		3		
	日本史B	4			3	3※	3		3※
	地理B	4							
公民	現代社会	2	2						
	倫理	2					2		
	政治・経済	2					3		
数学	数学Ⅰ	3	3						
	数学Ⅱ	4	1		4	4			
	数学Ⅲ	5				1			3
	数学A	2	1						
	数学B	2			2	2			
	数学演習α	2							
	数学演習β	3						3	4
理科	物理基礎	2	2						
	物理	4							
	化学基礎	2			2	2			
	化学	4				2			4
	生物基礎	2	2						
	生物	4							
	化学基礎演習α	2					2		
	化学基礎演習β	1					1	3	
	生物基礎演習α	2			2		1		
保健体育	体育	7-8	3		2	2	2		2
	保健	2	1		1	1			
	ライフスポーツ	3							
芸術	音楽Ⅰ	2	2						
	美術Ⅰ	2							
	書道Ⅰ	2							
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3						
	コミュニケーション英語Ⅱ	4			4	4			
	コミュニケーション英語Ⅲ	4					2		2
	英語表現Ⅰ	2	2						
	英語表現Ⅱ	4			2	2	3		3
	英語演習α	3							
	英語演習β	3							
家庭	英語演習γ	2					2		2
	家庭基礎	2	2						
SGH	LWI	1	1						
	GWII	2			2	2			
教科合計				32	32	32	32	32	
羅針盤				3-6	1	1	1	1	
合計				33	33	33	33	33	
特別活動	ホームルーム活動			1	1	1	1	1	
備考	<p>1年次数学は、10月まで数学Ⅰ、10月から12月までを数学A、その後数学Ⅱを履修する。2年次文系数学は、11月まで数学Ⅱ、その後は数学Bを履修する。2年次理系数学は、10月まで数学Ⅱ、10月から1月まで数学B、その後数学Ⅲを履修する。2年次理系理科は、9月まで化学基礎、その後化学を履修する。3年次理系数学は、7月まで数学Ⅲ、その後数学演習βまたは数学演習γを履修する。3年次外国語は、9月までコミュニケーション英語Ⅲ、その後英語演習γを履修する。2年次SGHのGWIIは、社会と情報の代替科目として履修する。</p>								

2 学校設定科目シラバス
平成28年度

LWI (Local Water Issues)

教科	SGH	単位数	1 単位	学 年	1 年	集 団	必修・全クラス
使用教科書	橋本淳司『通読できてよくわかる 水の科学』（ベレ出版）						
副教材等							

1 学習の目標

「富士山の恵みの水を守る・生かす」をテーマに、地域と水問題に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して「SGH課題研究」の目標に示された能力と態度を育てる。

2 科目の特色

SGH課題研究では、学習方法として課題基盤型学習（PBL）、反転学習、アクティブ・ラーニングを活用する。

3 学習の計画

（次ページに掲載）

4 評価の観点・方法

評価は、次の4つの観点から行います。

社会課題に対する関心	地域的な水についての問題に関心をもち、主体的に問題の解決をしようとする意欲とともに、他者とコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。
問題解決力	水についての問題を自ら設定し、その解決策を創造的に探究する過程を通して論理的・批判的な思考力を活かしている。また、他者と協働して問題を解決している。
コミュニケーション能力	コミュニケーションの基礎的・基本的な技能を身に付け、考えを言語やデータを用いて論理的に伝えている。また、非言語的な要素を取り入れて共感的に表現し、聴いたことに対して質問などを適切に行っている。
深い教養	教科横断的に、水に関する科学的な基礎知識を身に付け、自ら設定した水についての問題に関する国際的、社会的、文化的な背景を理解している。

評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・ グループディスカッション、アクティビティ（観察）
- ・ 相互評価・自己評価（振り返りシート）
- ・ 地域と水問題（日本語エッセイ・レポート）
- ・ フィールドワーク（レポート・プレゼンテーション）
- ・ 地域と水（日本語レジュメ・日本語ポスター・ポスターセッション）
- ・ 地域と水（英語ポスター）

これらを総合的に判断して評価します。

5 特に強調しておきたい点

授業は主に話し合いなどの言語活動を中心に行われる。家庭学習として事前に授業に関する資料等を読んだり、調べたりして理解しておく必要がある場合がある。

LWI授業年間予定表

	Time	Date			特記	Phase	Theme
1	1	4	11	月	初期指導	1課題発見の準備とチームビルディング	LWIの発見（水問題の重要性）
	2					1課題発見の準備とチームビルディング	LWIの発見（富士山の地下水）
	3					1課題発見の準備とチームビルディング	LWIの発見（豪雨対策）
	4					1課題発見の準備とチームビルディング	LWIの発見（水を生かしたビジネス）
	5	4	13	水	通常授業	1課題発見の準備とチームビルディング	LWIの発見（節水）
	6	4	20	水	通常授業	1課題発見の準備とチームビルディング	LWIの発見（水循環？）
	7	4	27	木	通常授業	1課題発見の準備とチームビルディング	LWIの発見（気候変動の影響？）
	8	5	11	水	1～4限授業	1課題発見の準備とチームビルディング	LWIの発見（振り返りと今後の流れ）
2	9	5	18	水	体育祭予備日	2課題設定とフィールドワーク	グループテーマ決めと発表
	10	6	1	水	通常授業	2課題設定とフィールドワーク	グループテーマの再考と発表
	11	6	8	水	通常授業	2課題設定とフィールドワーク	英語版プレゼン大会までの計画策定
	12	6	15	水	通常授業	2課題設定とフィールドワーク	フィールドワークの作法
	13	6	22	水	通常授業	2課題設定とフィールドワーク	外部有識者による課題策定指導
	14	6	29	水	通常授業	2課題設定とフィールドワーク	フィールドワークの準備
	15	7	13	水	通常授業	2課題設定とフィールドワーク	フィールドワークの準備
	16	7	20	水	4～7限授業	2課題設定とフィールドワーク	フィールドワークの準備
3	17	9	7	水	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	フィールドワークのまとめと計画の修正
	18	9	14	水	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	日本語ポスター・レジュメ作成1
	19	9	28	水	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	日本語ポスター・レジュメ作成2
	★	10	3	月	羅針盤	3課題・解決方法のグループ発表	(日本語ポスター・レジュメ作成)
	20	10	12	水	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	日本語ポスター・レジュメ作成3
	21	10	19	水	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	日本語プレゼン練習
	★	10	24	月		3課題・解決方法のグループ発表	日本語プレゼン大会（クラス）
	22	10	26	水	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	日本語ポスターセッション練習
	23	11	2	水	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	日本語ポスターセッション練習
	★	11	7	月		3課題・解決方法のグループ発表	日本語ポスターセッションクラス代表決め
	24	11	9	水	1～3限授業	3課題・解決方法のグループ発表	日本語ポスターセッション振り返り
	25	11	16	水	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	セッション振り返り／英語ポスター作成1
	★	11	16	水	羅針盤	3課題・解決方法のグループ発表	(英語ポスター作成)
	26	11	19	土	オープンスクール	3課題・解決方法のグループ発表	日本語ポスターセッション（クラス代表）
	27	11	30	水	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語ポスター作成2
	28	12	7	水	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語ポスター・発表原稿作成3
29	12	14	水	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語ポスター・発表原稿作成4	
30	12	21	木	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語プレゼン練習	
31	1	11	水	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語プレゼン練習	
★	1	16	月		3課題・解決方法のグループ発表	英語プレゼン大会（クラス）	
32	1	18	水	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語ポスターセッション練習	
★	1	23	月		3課題・解決方法のグループ発表	英語ポスターセッションクラス代表決め	
4	33	1	25	水	通常授業	4課題・解決方法の個人発表	セッション振り返り／個人レポート
	34	2	1	水	通常授業	4課題・解決方法の個人発表	個人レポート
		2	2?	木	事業報告会	日程未定	英語ポスターセッション（クラス代表）
	35	2	8	水	通常授業	5GWIへ向けて	
	★	2	13	月	羅針盤	4課題・解決方法の個人発表	個人レポート
	36	2	15	水	通常授業	5GWIへ向けて	
	37	2	22	水	通常授業	5GWIへ向けて	
5		3	13	月	特別授業	GWIプレフォーラム	

★ 授業としてはカウントしない時間

平成28年度

GWI (Global Water Issues)

教科	SGH	単位数	2単位	学年	2年	集団	必修・全クラス
使用教科書	沖 大幹『水危機 本当の話』（新潮社）						
副教材等	パーフェクトガイド情報（実教出版）						

1 学習の目標

- 世界の水問題に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して「SGH課題研究」の目標に示された能力と態度を育てる。
- 情報社会を支える情報技術の役割や影響を理解させる。
- 情報と情報技術を問題の発見と解決に効果的に活用するための科学的な考え方を習得させる。
- 情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を育てる。

2 科目の特色

- SGH課題研究では、学習方法として課題基盤型学習（PBL）、反転学習、アクティブ・ラーニングを活用する。
- 文書作成・デザイン（ワード）、統計分析（エクセル）、プレゼンテーション（パワーポイント）などのパソコン演習や情報通信ネットワークの活用して情報モラル、セキュリティと情報分析による株式投資の演習を行う。

3 学習の計画

（次ページに掲載）

4 評価の観点・方法

評価は、次の4つの観点から行います。

社会課題に対する関心	国際的な水についての問題に関心をもち、主体的に問題の解決をしようとする意欲とともに、他者とコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。
問題解決力	水についての問題を自ら設定し、その解決策を創造的に探究する過程を通して論理的・批判的な思考力を活かしている。また、他者と協働して問題を解決している。
コミュニケーション能力	コミュニケーションの技能を身に付け、考えを言語やデータを用いて論理的に伝えている。また、非言語的な要素を取り入れて共感的に表現し、聴いたことに対して質問などを適切にし行っている。
深い教養	教科横断的に、水に関する科学的な基礎知識を身に付け、自ら設定した水についての問題に関する国際的、社会的、文化的な背景を理解している。

評価は、具体的には次のものを対象とします。

- グループディスカッション、アクティビティ（観察）
 - 相互評価・自己評価（振り返りシート）
 - 世界の水問題（英語エッセイ・レポート）
 - フィールドワーク（レポート・プレゼンテーション）
 - 世界の水（英語レジュメ・英語ポスター・ポスターセッション）
 - 情報社会・技術等に対する理解（テストあるいは提出物）
- これらを総合的に判断して評価します。

5 特に強調しておきたい点

授業は主に話し合いなどの言語活動を中心に行われる。家庭学習として事前に授業に関する資料等を読んだり、調べたりして理解しておく必要がある場合がある。

GWI授業年間予定表(金曜日)*

	Time	Date	特記	Phase	Theme	
1	1	4/8	金	通常授業	1課題・解決方法の個人発表	GWIテーマ個人課題策定
	2	4/15	金	通常授業	1課題・解決方法の個人発表	個人探究(英文エッセイ作成)
	3	4/22	金	通常授業	1課題・解決方法の個人発表	個人探究(英文エッセイ作成)
	4	5/6	金	通常授業	1課題・解決方法の個人発表	個人探究(英文エッセイ作成)
	5	5/20	金	通常授業	1課題・解決方法の個人発表	個人探究(英文エッセイ作成)
2	6	5/27	金	通常授業	2課題策定とチームビルディング	チームテーマ決めと発表
	7	6/3	金	通常授業	2課題策定とチームビルディング	チームテーマの再考と発表
	8	6/10	金	通常授業	2課題策定とチームビルディング	チーム研究(ポスターセッションまで)の計画策定
	9	6/17	金	通常授業	2課題策定とチームビルディング	外部有識者による課題策定指導
3	10	6/24	金	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ作成
	11	7/1	金	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ作成
	12	7/15	金	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	シンガポール研修課題設定
	13	7/15	金	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	シンガポール研修課題設定
	14	9/9	金	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	シンガポール研修まとめと発表
	15	9/9	金	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ作成・英語ポスター制作
	16	9/16	金	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	外部有識者によるポスター制作前指導
	17	9/23	金	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ作成・英語ポスター制作
	18	9/23	金	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ作成・英語ポスター制作
	修学旅行10月2日(日)~7日(金)					
	19	10/14	金	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	シンガポール研修まとめと発表
	20	10/14	金	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ作成・英語ポスター制作
	21	10/21	金	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ作成・英語ポスター制作
	22	10/21	金	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ作成・英語ポスター制作
	23	10/28	金	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語プレゼン練習
	24	10/28	金	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語プレゼン練習
	★	11/7	月		3課題・解決方法のグループ発表	英語プレゼン大会(クラス)
	25	11/11	金	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語ポスターセッションクラス代表決め
26	11/11	金	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語ポスターセッションクラス代表決め	
27	11/18	金	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	ポスターセッション振り返り	
28	11/18	金	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ修正・ポスター修正	
★	11/19	土	オープンスクール	3課題・解決方法のグループ発表	英語ポスターセッション(クラス代表)	
29	11/25	金	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ修正・ポスター修正	
30	11/25	金	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ修正・ポスター修正	
31	12/9	金	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ修正・ポスター修正	
32	12/9	金	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ修正・ポスター修正	
33	12/16	金	午前授業	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ修正・ポスター修正・練習	
34	12/16	金	午前授業	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ修正・ポスター修正・練習	
33	1/6	金	金5~6限	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ修正・ポスター修正・練習	
34	1/6	金	金5~6限	3課題・解決方法のグループ発表	英文レジュメ修正・ポスター修正・練習	
35	1/13	金	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語ポスターセッション練習	
36	1/13	金	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語ポスターセッション練習	
★	1/16	月		3課題・解決方法のグループ発表	英語ポスターセッション練習	
37	1/20	金	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語ポスターセッションクラス代表決め	
38	1/20	金	通常授業	3課題・解決方法のグループ発表	英語ポスターセッションクラス代表決め	
★	1/23	月		3課題・解決方法のグループ発表	セッション振り返り	
39	1/27	金	通常授業	(4 3月プレゼン大会に向けて)	英語プレゼン作成	
40	1/27	金	通常授業	(4 3月プレゼン大会に向けて)	英語プレゼン作成	
-	2/2	木		事業報告会	英語ポスターセッション(クラス代表)	
4	41	2/3	金	通常授業	(4 3月プレゼン大会に向けて)	英語プレゼン作成
	42	2/3	金	通常授業	(4 3月プレゼン大会に向けて)	英語プレゼン作成
	43	2/10	金	通常授業	(4 3月プレゼン大会に向けて)	英語プレゼン作成・発表練習
	44	2/10	金	通常授業	(4 3月プレゼン大会に向けて)	英語プレゼン発表練習
	45	2/17	金	通常授業	(4 3月プレゼン大会に向けて)	英語プレゼンクラス代表決め
	46	2/17	金	通常授業	(4 3月プレゼン大会に向けて)	英語プレゼンクラス代表決め

3月 特別時間割 プレゼン大会 英語プレゼン(クラス代表)

※ GWIは実施曜日が木曜日と金曜日に分かれる(cf.p.20)。この計画は、金曜日を実施するクラス用。

イ 職員対象アンケート

三島北高校 S G H 活動に関する調査（平成29年2月実施）

教科（ ） 年代（20代・30代・40代・50代・60代） 性別（男・女）

全員対象（S G Hの授業を実施しているか否かに関わらず、全員が回答してください。）

あなた自身の信念や実績について伺います。以下の1～14の項目は、あなた自身にどの程度あてはまりますか？

「まったく当てはまらない」「当てはまらない」「当てはまる」「非常によく当てはまる」の4段階から選び、該当する欄に○をつけてください。

また15は、あなた自身の感想を自由に記述してください。

非 常 に よ く 当 て は ま る	当 て は ま る	ま た く 当 て は ま ら な い
--	-----------------------	--

1	教員としての私の役割は、生徒自身の探究を促すことだと思う。			
2	生徒は、問題に対する解決策を自ら見出すことで、最も効果的に学習すると思う。			
3	他の教員の授業を見学し、感想を述べることがある。			
4	同僚と教材をやり取りしたり、共有したりすることがある。			
5	特定の生徒の学習の向上について議論することがある。			
6	生徒に勉強ができると自信を持たせるようにしている。			
7	生徒が学習の価値を見出せるよう手助けをしている。			
8	生徒のために発問を工夫している。			
9	勉強にあまり関心を示さない生徒に動機付けをしている。			
10	自分が生徒にどのような態度や行動を期待しているか明確に示している。			
11	生徒の批判的思考を促している。			
12	多様な評価方法を活用している。			
13	生徒が理解できていないようなときには、別の説明のしかたを工夫している。			
14	アクティブ・ラーニングの手法を取り入れて授業を行っている。			
15	（自由記述）本校がS G H指定校となり、あなた自身の意識の変容はありましたか？ （1～14の項目の内容の補足でも、それ以外の内容でも構いません。）			

SGH担当者対象（平成28年度にLWIとGWIを担当している先生が回答してください。）

以下の16～28の項目について、SGH事業をとおして、生徒に変化があったと思いますか？

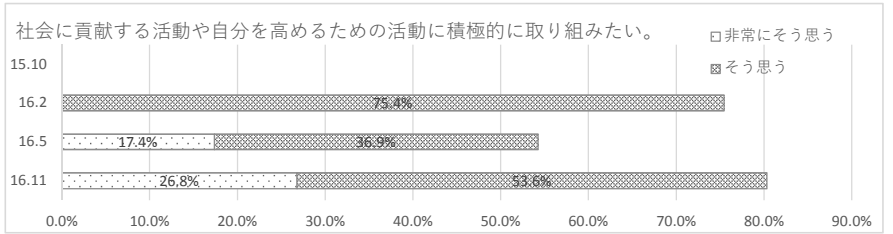
「思わない」「あまり思わない」「そう思う」「非常にそう思う」の4段階から選び、該当する欄に○をつけてください。

また29は、あなた自身の感想を自由に記述してください。

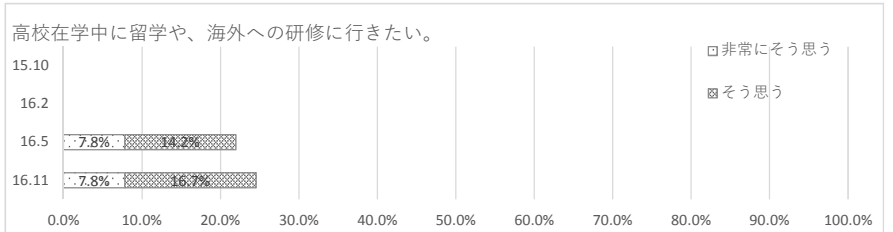
非 常 に そ う 思 う	そ う 思 う	あ ま り 思 わ な い	思 わ な い
---------------------------------	------------------	---------------------------------	------------------

16	社会貢献活動や自分を高めるための活動（読書等も含む）に積極的に取り組むようになった。			
17	進路選択に影響を与えた。			
18	社会問題に対して興味や関心を持つようになった。			
19	地域課題に対する興味や関心を持つようになった。			
20	SGHの学習で身に付けた思考のプロセスを、他の学習や日常といった様々な場面でも応用するようになった。			
21	考える力が身に付いた。（洞察力、発想力、論理力）			
22	課題解決をしていく上で、物事を多面的に見る姿勢が身に付いた。			
23	自分の考えを他者が理解できるよう伝える力が身に付いた。			
24	日本語で自分の意見や考え、探求の成果を多くの人に伝える力が身に付いた。 （レポート作成、プレゼンテーション）			
25	英語で自分の意見や考え、探求の成果を多くの人に伝える力が身に付いた。 （レポート作成、プレゼンテーション）			
26	周囲と協力して取り組む姿勢が身に付いた。（協調性、リーダーシップ）			
27	学習に対して、自分から意欲的に取り組む姿勢が身に付いた。			
28	学習以外のことに対して、自分から意欲的に取り組む姿勢が身に付いた。 （自主性、やる気、挑戦心）			
29	（自由記述）あなたは、SGH活動の生徒への効果は、どのようなものがあると思いますか？ （16～28の項目の内容の補足でも、それ以外の内容でも構いません。）			

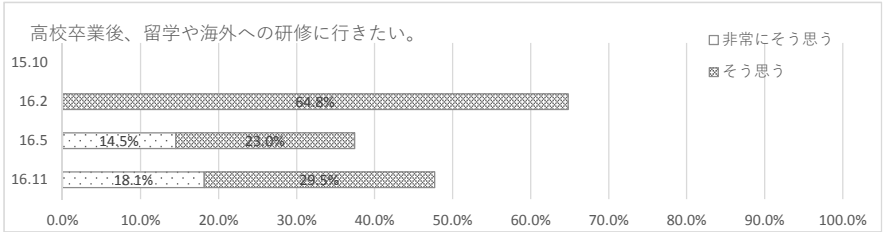
	16.11	16.5	16.2	15.10
非常にそう思う	26.8%	17.4%		
そう思う	53.6%	36.9%	75.4%	
		35.5%		
あまり思わない	16.1%	9.9%	24.6%	
思わない	3.6%	0.4%		
	100.0%	100.0%	100.0%	



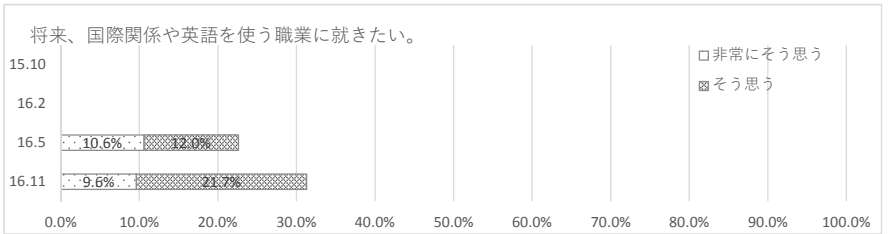
	16.11	16.5	16.2	15.10
非常にそう思う	7.8%	7.8%		
そう思う	16.7%	14.2%		
		25.5%		
あまり思わない	37.4%	22.7%		
思わない	38.1%	29.8%		
	100.0%	100.0%		



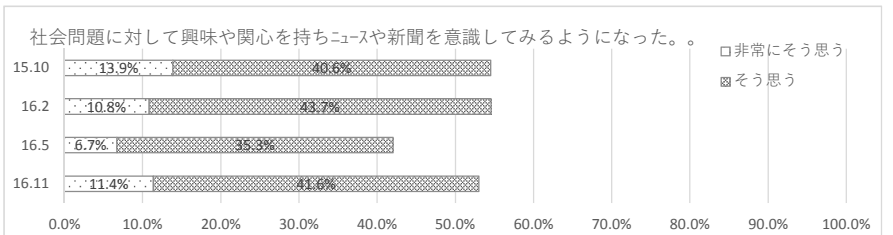
	16.11	16.5	16.2	15.10
非常にそう思う	18.1%	14.5%		
そう思う	29.5%	23.0%	64.8%	
		21.9%		
あまり思わない	31.0%	20.1%	35.2%	
思わない	21.4%	20.5%		
	100.0%	100.0%	100.0%	



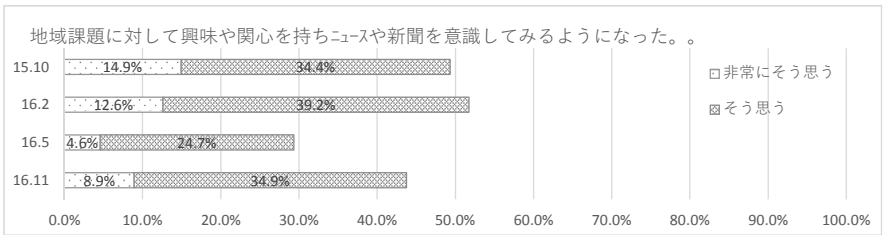
	16.11	16.5	16.2	15.10
非常にそう思う	9.6%	10.6%		
そう思う	21.7%	12.0%		
		28.3%		
あまり思わない	38.1%	27.9%		
思わない	30.6%	21.2%		
	100.0%	100.0%		



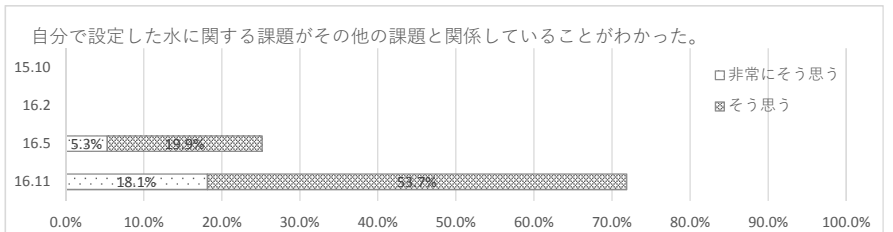
	16.11	16.5	16.2	15.10
非常にそう思う	11.4%	6.7%	10.8%	13.9%
そう思う	41.6%	35.3%	43.7%	40.6%
		42.8%	31.5%	35.1%
あまり思わない	39.1%	12.0%	12.2%	9.4%
思わない	7.8%	3.2%	1.7%	1.0%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



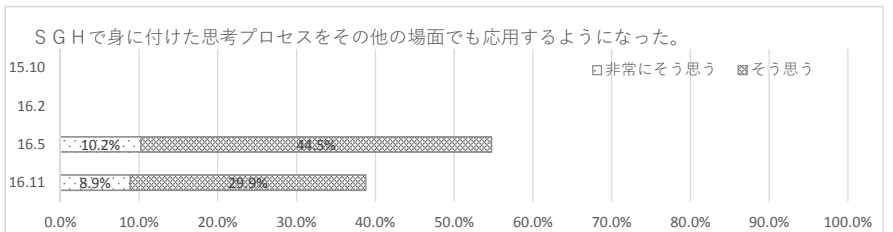
	16.11	16.5	16.2	15.10
非常にそう思う	8.9%	4.6%	12.6%	14.9%
そう思う	34.9%	24.7%	39.2%	34.4%
		53.0%	33.6%	37.8%
あまり思わない	43.1%	13.4%	12.2%	11.5%
思わない	13.2%	4.2%	2.4%	1.4%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



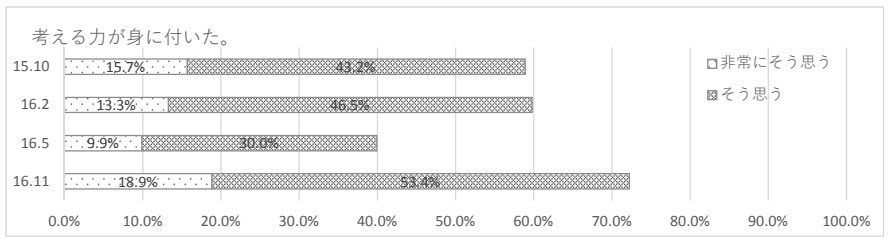
	16.11	16.5	16.2	15.10
非常にそう思う	18.1%	5.3%		
そう思う	53.7%	19.9%		
		45.4%		
あまり思わない	23.1%	22.7%		
思わない	5.0%	6.7%		
	100.0%	100.0%		



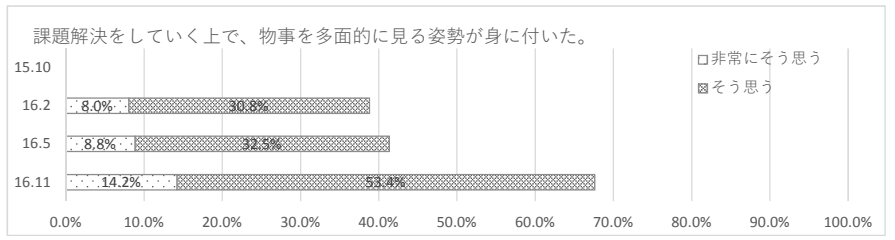
	16.11	16.5	16.2	15.10
非常にそう思う	8.9%	10.2%		
そう思う	29.9%	44.5%		
		34.6%		
あまり思わない	46.3%	9.5%		
思わない	14.9%	1.1%		
	100.0%	100.0%		



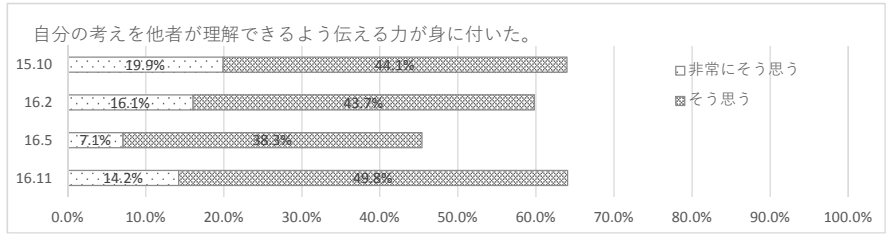
9	16.11	16.5	16.2	15.10
非常にそう思う	18.9%	9.9%	13.3%	15.7%
そう思う	53.4%	30.0%	46.5%	43.2%
		47.3%	31.8%	34.5%
あまり思わない	22.4%	12.0%	6.6%	5.9%
思わない	5.3%	0.7%	1.7%	0.7%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



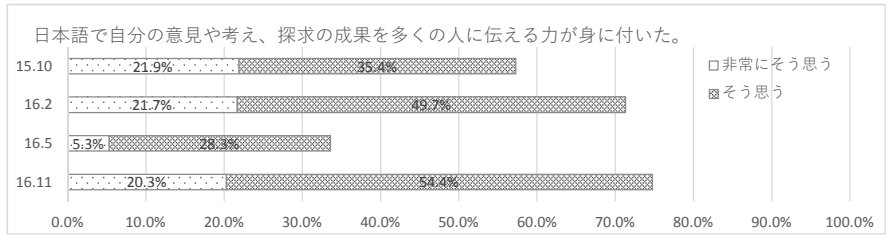
10	16.11	16.5	16.2	15.10
非常にそう思う	14.2%	8.8%	8.0%	
そう思う	53.4%	32.5%	30.8%	
		46.6%	45.1%	
あまり思わない	26.0%	11.0%	13.6%	
思わない	6.4%	1.1%	2.4%	
	100.0%	100.0%	100.0%	



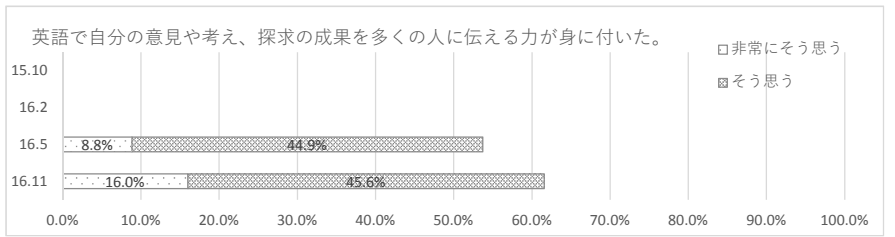
11	16.11	16.5	16.2	15.10
非常にそう思う	14.2%	7.1%	16.1%	19.9%
そう思う	49.8%	38.3%	43.7%	44.1%
		44.3%	31.5%	28.3%
あまり思わない	31.0%	8.9%	8.4%	6.6%
思わない	5.0%	1.4%	0.3%	1.0%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



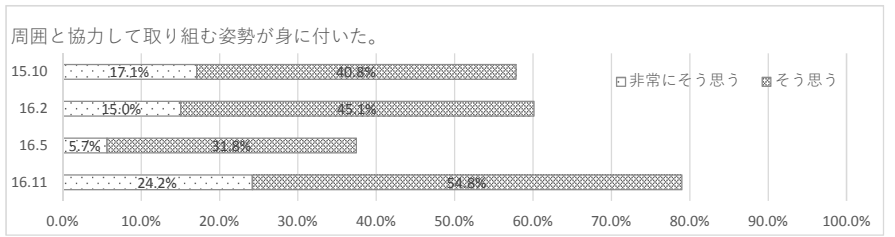
12	16.11	16.5	16.2	15.10
非常にそう思う	20.3%	5.3%	21.7%	21.9%
そう思う	54.4%	28.3%	49.7%	35.4%
		44.5%	21.3%	33.7%
あまり思わない	22.4%	19.8%	5.9%	8.0%
思わない	2.8%	2.1%	1.4%	1.0%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



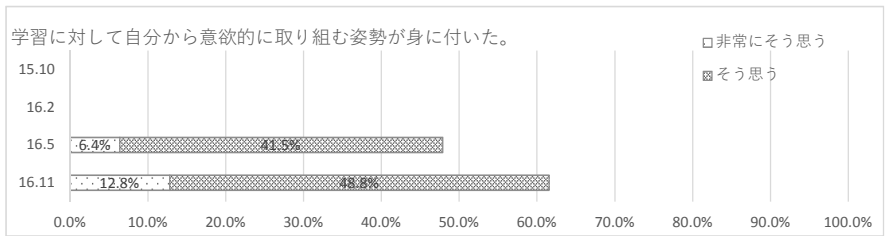
13	16.11	16.5	16.2	15.10
非常にそう思う	16.0%	8.8%		
そう思う	45.6%	44.9%		
		37.1%		
あまり思わない	33.1%	8.5%		
思わない	5.3%	0.7%		
	100.0%	100.0%		



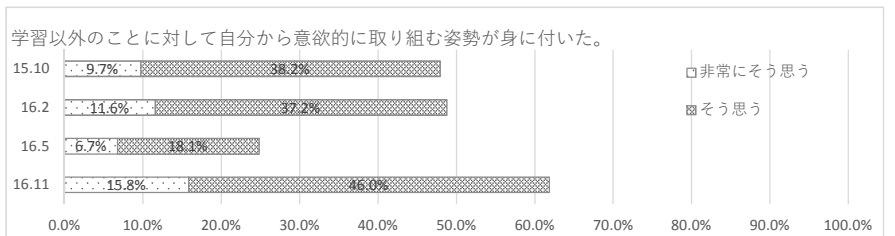
14	16.11	16.5	16.2	15.10
非常にそう思う	24.2%	5.7%	15.0%	17.1%
そう思う	54.8%	31.8%	45.1%	40.8%
		45.6%	31.1%	35.5%
あまり思わない	18.1%	12.0%	7.7%	5.2%
思わない	2.8%	4.9%	1.0%	1.4%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



15	16.11	16.5	16.2	15.10
非常にそう思う	12.8%	6.4%		
そう思う	48.8%	41.5%		
		40.1%		
あまり思わない	30.6%	10.3%		
思わない	7.8%	1.8%		
	100.0%	100.0%		

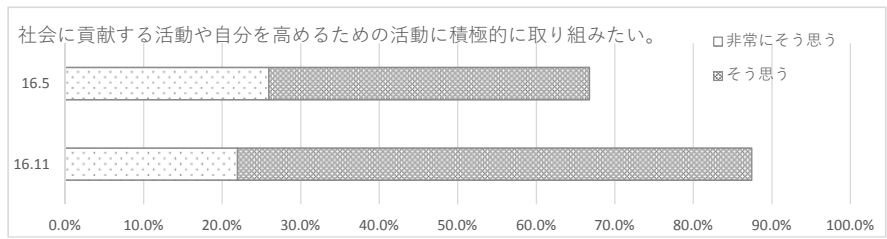


16	16.11	16.5	16.2	15.10
非常にそう思う	15.8%	6.7%	11.6%	9.7%
そう思う	46.0%	18.1%	37.2%	38.2%
		39.7%	37.2%	41.3%
あまり思わない	31.3%	25.5%	13.0%	9.7%
思わない	6.8%	9.9%	1.1%	1.0%
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

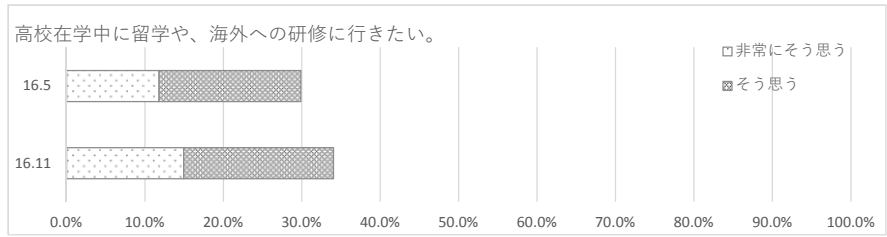


イ 平成28年度入学生対象

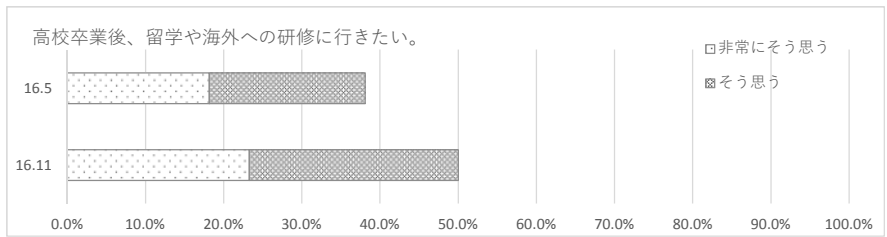
	16.11	16.5
非常にそう思う	22.0%	26.0%
そう思う	65.5%	40.8%
		26.3%
あまり思わない	9.4%	4.5%
思わない	3.1%	2.4%
	100.0%	100.0%



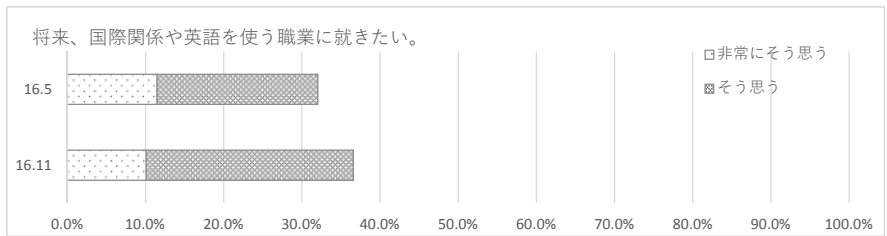
	16.11	16.5
非常にそう思う	14.9%	11.8%
そう思う	19.1%	18.1%
		21.9%
あまり思わない	37.8%	24.3%
思わない	28.1%	24.0%
	100.0%	100.0%



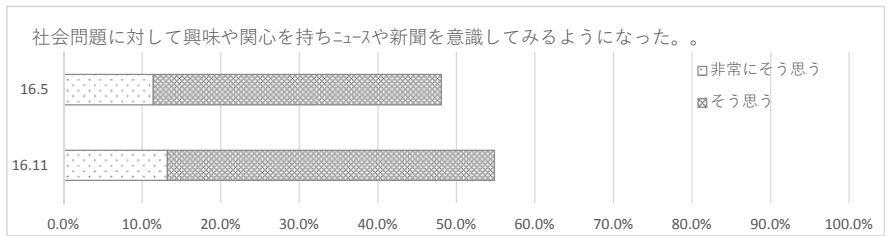
	16.11	16.5
非常にそう思う	23.3%	18.2%
そう思う	26.7%	19.9%
		24.5%
あまり思わない	28.1%	17.8%
思わない	21.9%	19.6%
	100.0%	100.0%



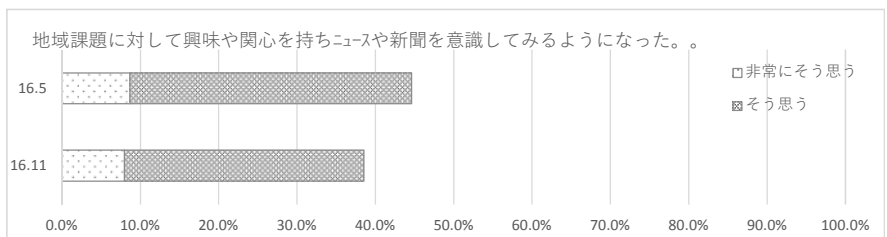
	16.11	16.5
非常にそう思う	10.1%	11.5%
そう思う	26.5%	20.6%
		30.3%
あまり思わない	40.4%	24.4%
思わない	23.0%	13.2%
	100.0%	100.0%



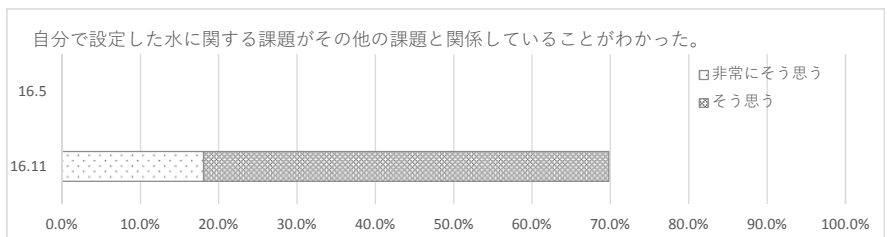
	16.11	16.5
非常にそう思う	13.2%	11.4%
そう思う	41.7%	36.7%
		39.4%
あまり思わない	34.4%	10.7%
思わない	10.8%	1.7%
	100.0%	100.0%



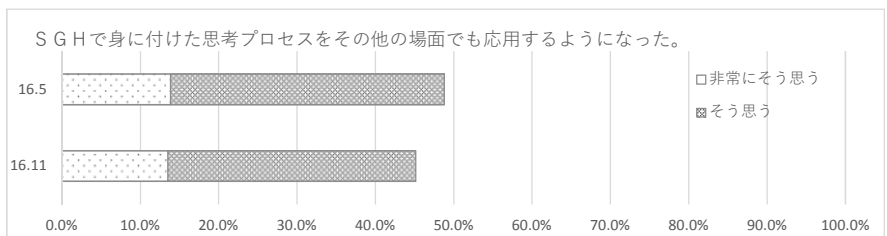
	16.11	16.5
非常にそう思う	8.0%	8.7%
そう思う	30.6%	36.0%
		36.7%
あまり思わない	45.8%	14.9%
思わない	15.6%	3.8%
	100.0%	100.0%



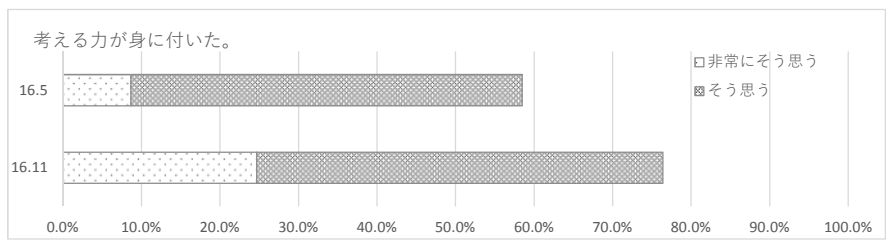
	16.11	16.5
非常にそう思う	18.1%	
そう思う	51.7%	
あまり思わない	24.3%	
思わない	5.9%	
	100.0%	



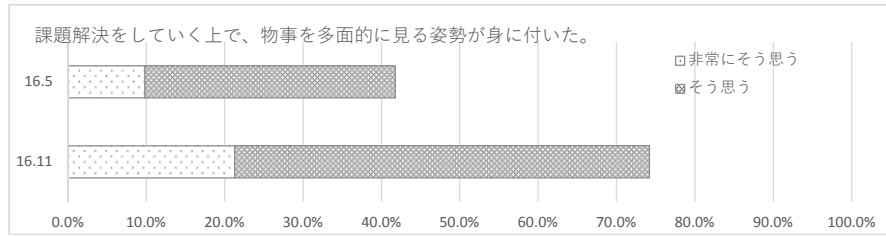
	16.11	16.5
非常にそう思う	13.5%	13.8%
そう思う	31.6%	34.9%
		38.8%
あまり思わない	43.8%	9.0%
思わない	11.1%	3.5%
	100.0%	100.0%



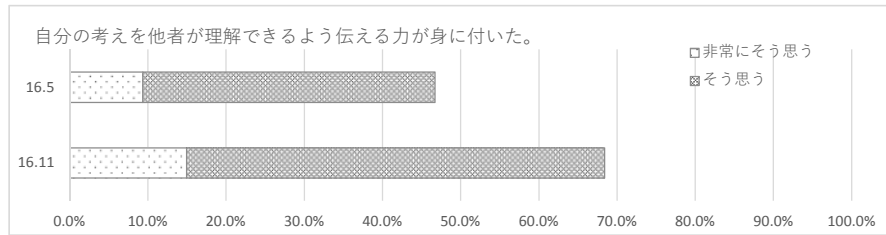
	16.11	16.5
9		
非常にそう思う	24.7%	8.7%
そう思う	51.7%	49.8%
		33.6%
あまり思わない	19.1%	6.6%
思わない	4.5%	1.4%
	100.0%	100.0%



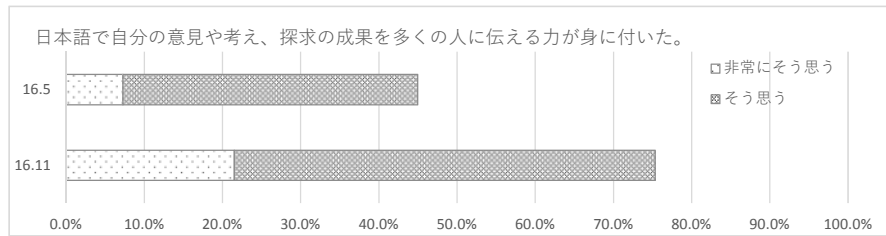
	16.11	16.5
10		
非常にそう思う	21.3%	9.8%
そう思う	53.0%	31.9%
		46.0%
あまり思わない	22.3%	9.5%
思わない	3.5%	2.8%
	100.0%	100.0%



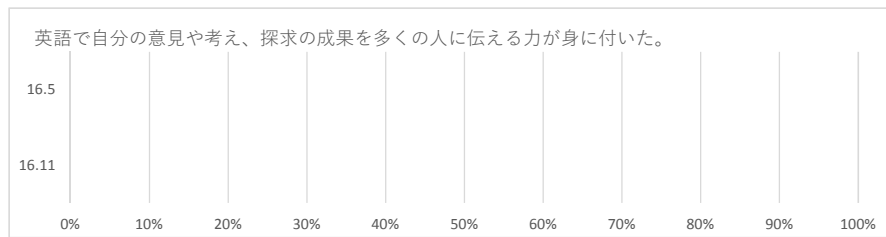
	16.11	16.5
11		
非常にそう思う	14.9%	9.3%
そう思う	53.5%	37.4%
		43.9%
あまり思わない	27.8%	7.3%
思わない	3.8%	2.1%
	100.0%	100.0%



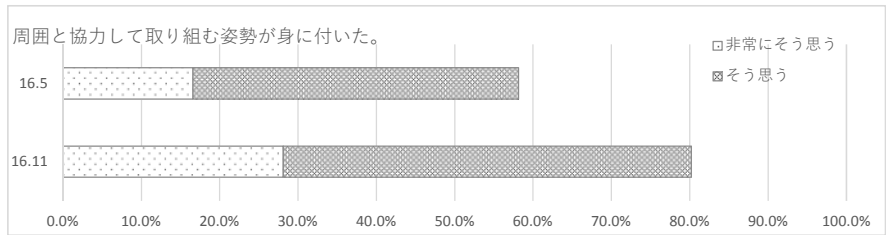
	16.11	16.5
12		
非常にそう思う	21.5%	7.3%
そう思う	53.8%	37.7%
		43.3%
あまり思わない	22.6%	9.0%
思わない	2.1%	2.8%
	100.0%	100.0%



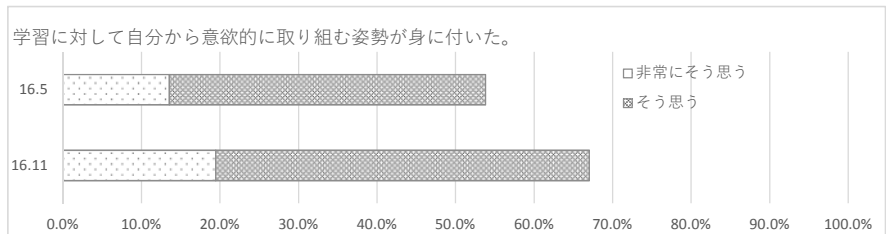
	16.11	16.5
13		
非常にそう思う	-	-
そう思う	-	-
		-
あまり思わない	-	-
思わない	-	-



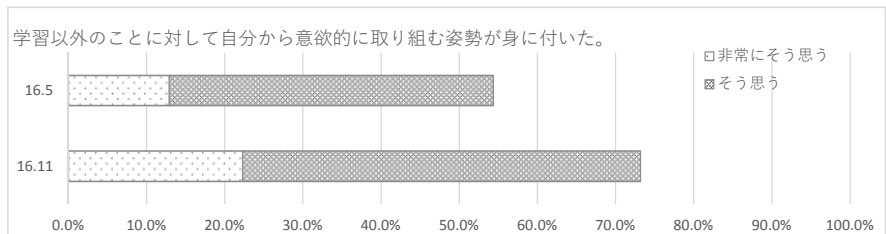
	16.11	16.5
14		
非常にそう思う	28.1%	16.6%
そう思う	52.1%	41.5%
		33.9%
あまり思わない	16.7%	5.9%
思わない	3.1%	2.1%
	100.0%	100.0%



	16.11	16.5
15		
非常にそう思う	19.4%	13.5%
そう思う	47.6%	40.3%
		35.4%
あまり思わない	28.8%	8.3%
思わない	4.2%	2.4%
	100.0%	100.0%



	16.11	16.5
16		
非常にそう思う	22.3%	12.9%
そう思う	50.9%	41.5%
		36.2%
あまり思わない	21.6%	7.0%
思わない	5.2%	2.4%
	100.0%	100.0%



ウ 職員対象

全員対象（SGHの授業を実施しているか否かに関わらず、全員が回答してください。）

あなた自身の信念や実績について伺います。以下の1～14の項目は、あなた自身にどの程度あてはまりますか？

「まったく当てはまらない」「当てはまらない」「当てはまる」「非常によく当てはまる」の4段階から選び、該当する欄に○をつけてください。

また15は、あなた自身の感想を自由に記述してください。

		全体	SGH担当	SGH非担当
1	教員としての私の役割は、生徒自身の探究を促すことだと思う。	87.9%	88.9%	86.7%
2	生徒は、問題に対する解決策を自ら見出すことで、最も効果的に学習すると思う。	93.9%	100.0%	86.7%
3	他の教員の授業を見学し、感想を述べることがある。	48.5%	44.4%	53.3%
4	同僚と教材をやり取りしたり、共有したりすることがある。	93.9%	94.4%	93.3%
5	特定の生徒の学習の向上について議論することがある。	72.7%	77.8%	66.7%
6	生徒に勉強ができると自信を持たせるようにしている。	78.8%	77.8%	80.0%
7	生徒が学習の価値を見出せるよう手助けをしている。	87.9%	88.9%	86.7%
8	生徒のために発問を工夫している。	90.9%	94.4%	86.7%
9	勉強にあまり関心を示さない生徒に動機付けをしている。	72.7%	83.3%	60.0%
10	自分が生徒にどのような態度や行動を期待しているか明確に示している。	75.8%	83.3%	66.7%
11	生徒の批判的思考を促している。	50.0%	38.9%	64.3%
12	多様な評価方法を活用している。	54.5%	72.2%	33.3%
13	生徒が理解できていないようなときには、別の説明のしかたを工夫している。	87.9%	88.9%	86.7%
14	アクティブ・ラーニングの手法を取り入れて授業を行っている。	72.7%	83.3%	60.0%
15	（自由記述）本校がSGH指定校となり、あなた自身の意識の変容はありましたか？ （1～14の項目の内容の補足でも、それ以外の内容でも構いません。）			

SGH担当者対象（平成28年度にLWIとGWIを担当している先生が回答してください。）

以下の16～28の項目について、SGH事業をとおして、生徒に変化があったと思いますか？
「思わない」「あまり思わない」「そう思う」「非常にそう思う」の4段階から選び、該当する欄に○をつけてください。

また29は、あなた自身の感想を自由に記述してください。

		S G H 担 当
16	社会貢献活動や自分を高めるための活動（読書等も含む）に積極的に取り組むようになった。	44.4%
17	進路選択に影響を与えた。	33.3%
18	社会問題に対して興味や関心を持つようになった。	83.3%
19	地域課題に対する興味や関心を持つようになった。	77.8%
20	SGHの学習で身に付けた思考のプロセスを、他の学習や日常といった様々な場面でも応用するようになった。	72.2%
21	考える力が身に付いた。（洞察力、発想力、論理力）	94.4%
22	課題解決をしていく上で、物事を多面的に見る姿勢が身に付いた。	72.2%
23	自分の考えを他者が理解できるよう伝える力が身に付いた。	88.9%
24	日本語で自分の意見や考え、探求の成果を多くの人に伝える力が身に付いた。 （レポート作成、プレゼンテーション）	94.4%
25	英語で自分の意見や考え、探求の成果を多くの人に伝える力が身に付いた。 （レポート作成、プレゼンテーション）	77.8%
26	周囲と協力して取り組む姿勢が身に付いた。（協調性、リーダーシップ）	94.4%
27	学習に対して、自分から意欲的に取り組む姿勢が身に付いた。	55.6%
28	学習以外のことに対して、自分から意欲的に取り組む姿勢が身に付いた。 （自主性、やる気、挑戦心）	55.6%
29	（自由記述）あなたは、SGH活動の生徒への効果は、どのようなものがあると思いますか？ （16～28の項目の内容の補足でも、それ以外の内容でも構いません。）	

平成 26 年度指定スーパーグローバルハイスクール
研究報告書・第 3 年次

発行	平成 29 年 3 月
発行者	静岡県立三島北高等学校 校長 杉山 由美子
所在地	〒411-0033 静岡県三島市文教町 1 丁目 3 番 18 号
電話	055-986-0107
FAX	055-986-2480
Email	mishimakita-h@edu.pref.shizuoka.jp